

# 独立行政法人日本芸術文化振興会の平成23年度に係る業務の実績に関する評価

## 全体評価

<参考> 業務の質の向上:A 業務運営の効率化:A 財務内容の改善:A

### ①評価結果の総括

- ・法人全体の取り組みに関しては、おおむね計画どおりに実施され、平成22年度評価を受けて改善が見られた。
- ・東日本大震災への対応は適切になされていると評価する。
- ・更に質の向上を目指した取組が必要である。

### ②平成23年度の評価結果を踏まえた、事業計画及び業務運営等に関して取るべき方策(改善のポイント)

#### (1)事業計画に関する事項

- ・公演事業に関してはおおむね計画どおりに実施されたが、伝統芸能、現代舞台芸術の両分野で入場率の未達が散見された。(項目別－14、84参照)
- ・事業内容がさらに広く理解されるよう、広報活動には今後とも力を入れることが望ましい。(項目別－8、76、108参照)
- ・地方との連携に関して、より多くの国民に国立の芸術活動に接してもらえるように、全国ネットワークを構築して、各地での事業・広報活動に積極的に取り組んで欲しい。(項目別－61、97参照)
- ・業務改善につなげる方策としては、アンケート調査結果の詳細分析、モニターの活用が求められる。(項目別－16、66ほか参照)
- ・全体として成果を上げてはいるが、復活や新作募集事業などマンネリになっていないか、事業の意味と目的意識を再検証する機会を増やして欲しい。(項目別－14ほか参照)

#### (2)業務運営に関する事項

- ・職員の専門性を高めるよう、人事・研修など更なる配慮を求めたい。(項目別－174、209参照)
- ・金融資産について、安全かつ効率的な運用を行うために、今後はポートフォリオを有効活用して欲しい。(項目別－207参照)

#### (3)その他

- ・特になし

### ③特記事項

- ・東日本大震災による影響を精査、検証し、今後の業務運営への対策の一助としてもらいたい。
- ・芸術性だけでなく、被災者の郷土芸能への想いを重視した形での、東日本大震災被災地への継続的な支援の実施が望まれる。

文部科学省独立行政法人評価委員会  
文化分科会 日本芸術文化振興会部会 名簿

<正委員>

田 淵 雪 子 行政経営コンサルタント  
総務省政策評価・独立行政法人評価委員会委員

○山 本 健 一 演劇評論家

<臨時委員>

石戸谷 結子 音楽評論家

神 山 彰 明治大学文学部教授

佐々木 涼子 舞踊評論家、東京女子大学教授

宮 島 博 和 公認会計士

(以上6名)

○ . . . 部会長

独立行政法人日本芸術文化振興会の平成23年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※					項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	A	A	A		(中項目名)調査研究の実施・資料の収集活用	A	A	A	A	
(中項目名)文化芸術活動に対する援助	A	A	A	A		(小項目名)伝統芸能関係	A	A	A	A	
(小項目名)助成金の交付	A	A	A	A		(細細目名)伝統芸能の調査研究	S	S	S	S	
(小項目名)芸術団体等に対する各種情報等の収集及び提供	A	A	A	A		(細細目名)伝統芸能の調査研究資料の収集・活用	A	A	A	A	
(小項目名)基金の管理運用	A	A	A	A		(細細目名)公演記録の作成・活用、普及活動の実施	A	A	A	A	
(中項目名)伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	A	A	A	A		(小項目名)現代舞台芸術関係	B	B	B	B	
(小項目名)伝統芸能の公開	A	A	A	A		(細細目名)現代舞台芸術の調査研究	B	B	B	B	
(細目名)伝統芸能の公開	A	A	A	A		(細細目名)現代舞台芸術の調査研究資料の収集・活用	B	B	B	B	
(細細目名)歌舞伎	A	A	A	A		(細細目名)公演記録の作成・活用、普及活動の実施	A	B	A	B	
(細細目名)文楽	A	A	A	A		(大項目名)業務の効率化に関する目標を達成するための措置	A	A	A	A	
(細細目名)舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか	A	A	A	A		(中項目名)業務運営の効率化	A	A	A	A	
(細細目名)大衆芸能	A	A	A	A		(小項目名)効率化に関する取組み	A	A	A	A	
(細細目名)能楽	A	A	A	A		(小項目名)随意契約の見直し	A	B	A	A	
(細細目名)組踊等沖縄伝統芸能	A	B	B	A		(小項目名)給与水準の適正化等	A	A	A	A	
(細細目名)演目の拡充	A	A	A	A		(中項目名)外部評価の実施	A	A	A	A	
(細目名)連携協力・地方における上演等	B	B	B	B		(大項目名)財務内容の改善に関する事項	A	A	A	A	
(細目名)快適な観劇環境の形成	A	A	A	A		(中項目名)予算、収支計画及び資金計画	A	A	A	A	
(細目名)広報・営業活動の充実	A	A	A	A		(大項目名)その他主務省令で定める業務運営に関する事項	A	A	A	A	
(小項目名)現代舞台芸術の公演	A	A	A	A		(中項目名)人事に関する計画	A	A	A	A	
(細目名)現代舞台芸術の公演	A	A	A	A		(中項目名)施設及び設備に関する計画	A	A	A	A	
(細細目名)オペラ	A	A	A	A		(中項目名)積立金の使途	A	A	A	A	
(細細目名)バレエ	A	A	A	A		(中項目名)その他振興会の業務運営に関し必要な事項(運営委託)	B	A	A	A	
(細細目名)現代舞踊	A	B	B	A							
(細細目名)演劇	A	A	A	A							
(細目名)連携協力・地方における上演等	B	B	A	B							
(細目名)快適な観劇環境の形成	A	A	A	A							
(細目名)広報・営業活動の充実	A	A	B	A							
(小項目名)青少年等を対象とした公演	A	A	A	A							
(細細目名)伝統芸能分野	A	A	A	A							
(細細目名)現代舞台芸術分野	A	A	A	A							
(小項目名)劇場施設の使用効率の向上等	A	B	B	A							
(細細目名)伝統芸能分野	A	A	A	A							
(細細目名)現代舞台芸術分野	B	B	B	A							
(中項目名)伝統芸能伝承者養成・現代舞台芸術実演家等の研修	A	A	A	A							
(小項目名)伝統芸能の伝承者の養成	A	A	A	A							
(小項目名)現代舞台芸術の実演家等の研修	A	A	A	A							

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

※「-」は当該年度では該当がないことを、「/」は終了した事業を表す。

備考(法人の業務・マネジメントに係る意見募集結果の評価への反映に対する説明等)  
 本法人の業務・マネジメントに係る意見募集を実施した結果、意見は寄せられなかった。

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
収入						支出					
運営費交付金	11,482	11,023	10,985	10,570	10,244	一般管理費	1,113	1,065	975	1,054	1,237
文化芸術振興費補助金	—	—	5,178	4,493	4,248	事業費	10,799	9,597	9,663	9,571	9,231
施設整備費補助金	801	874	1,803	3,081	412	文化芸術振興費	—	—	4,924	4,306	4,056
公演事業収入	3,046	2,971	3,013	2,868	2,809	施設整備費	801	874	1,803	3,081	412
公演受託事業収入	56	25	11	39	0	公演事業費	2,963	2,835	2,974	2,840	2,863
基金運用収入	1,880	1,775	1,657	1,379	1,520	公演受託事業費	54	21	10	35	0
諸収入	96	122	81	107	93	基金助成事業費	1,961	1,844	1,383	1,641	1,603
計	17,361	16,790	22,728	22,537	19,326	計	17,691	16,236	21,732	22,528	19,402

(単位:百万円)

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
費用						収益					
経常費用						運営費交付金収益	10,838	10,052	9,668	9,437	9,357
国立劇場公演等事業費	7,021	7,035	6,919	6,732	6,872	事業収入	4,401	4,428	4,280	4,004	4,033
新国立劇場公演等事業費	4,972	4,479	4,447	4,326	4,001	受託事業収入	56	25	11	39	0
基金助成事業費	2,399	2,024	6,355	5,994	5,711	財産利用収入	57	58	59	56	54
一般管理費	1,023	970	953	965	1,047	寄附金収益	—	—	—	—	—
減価償却費	916	930	1,011	1,055	1,088	資産見返負債戻入	650	680	765	767	811
財務費用	31	17	16	16	11	文化芸術振興費補助金収益	—	—	4,924	4,306	4,056
雑損失	3	1	5	5	4	設備整備補助金収益	—	—	—	19	—
臨時損失	2	1	—	1	33	財務収益	237	222	194	186	191
計	16,367	15,457	19,706	19,094	18,767	雑益	78	98	66	83	78
						臨時利益	207	4	10	46	35
						計	16,524	15,567	19,977	18,943	18,615
						純利益	157	109	264	△ 151	△ 152
						目的積立金取崩額	50	—	—	—	—
						総利益	207	109	264	△ 151	△ 152

(単位:百万円)

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	20,287	29,276	38,650	37,177	36,226	業務活動による収入	21,338	29,843	42,552	38,151	37,259
投資活動による支出	11,716	13,161	17,090	21,804	13,226	運営費交付金による収入	11,482	11,023	10,985	10,570	10,244
財務活動による支出	219	243	210	255	252	文化芸術振興費補助金による収入	—	—	5,178	4,493	4,248
翌年度への繰越金	3,579	3,331	6,312	5,646	5,155	公演事業による収入	2,623	2,759	2,772	2,717	2,515
						基金運用による収入	1,880	1,639	1,640	1,379	1,521
						公演受託事業による収入	26	58	14	43	13
						その他の収入	5,327	14,364	21,964	18,949	18,718
						投資活動による収入	11,172	12,589	16,379	20,419	11,954
						施設費による収入	777	470	1,753	3,309	662
						その他の収入	10,395	12,119	14,626	17,110	11,292
						財務活動による収入	0	0	0	0	0
						前年度よりの繰越金	3,291	3,579	3,331	6,312	5,646
計	35,801	46,011	62,262	64,882	54,859	計	35,801	46,011	62,262	64,882	54,859

【参考資料2】貸借対照表の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
資産						負債					
流動資産	5,805	9,594	11,960	11,317	12,401	流動負債	2,215	2,585	5,397	4,724	4,052
現金及び預金	4,329	3,770	6,739	6,174	5,665	運営費交付金債務	—	422	833	861	703
有価証券	800	4,840	4,310	4,500	6,399	預り文化芸術振興費補助金	—	—	254	187	191
事業未収金	100	62	79	55	68	預り芸術文化復興支援基金	—	—	—	—	1
未収金	45	439	515	267	14	未払金	1,723	1,779	3,829	3,198	2,757
貸倒引当金	△ 1	△ 1	△ 1	△ 2	0	短期リース債務	239	127	236	237	201
貯蔵品	1	5	4	1	1	未払費用	1	1	1	1	1
前渡金	—	—	—	—	—	預り金	81	82	81	84	37
未収収益	522	466	306	318	246	前受収益	165	166	156	150	154
その他流動資産	9	12	6	1	8	賞与引当金	5	7	7	5	6
固定資産	241,145	234,755	234,522	234,653	230,449	その他の流動負債	1	1	1	1	1
有形固定資産	166,029	163,581	162,918	163,282	161,007	固定負債	3,221	2,952	3,351	3,535	3,712
建物	57,960	55,472	53,261	51,153	49,207	資産見返運営費交付金	2,582	2,470	2,635	2,965	3,089
構築物	1,421	1,317	1,215	1,116	1,015	建設仮勘定見返運営費交付金	—	—	—	36	165
機械装置	2,639	2,744	3,607	5,938	5,204	資産見返寄附金	262	210	181	142	80
車両運搬具	5	3	3	2	2	長期リース債務	321	217	465	307	276
工具器具備品	1,732	1,324	1,584	1,342	1,211	退職給付引当金	57	56	70	85	102
書画工芸品	271	275	275	275	275						
図書資料	556	591	601	626	657						
土地	101,444	101,856	102,344	102,793	103,204						
建設仮勘定	1	—	27	36	232						
無形固定資産	303	273	207	166	134						
ソフトウェア	302	272	206	165	133						
電話加入権	1	1	1	1	1						
投資その他の資産	74,813	70,901	71,397	71,205	69,308						
投資有価証券	62,496	58,588	59,088	59,897	58,005	負債合計	5,436	5,537	8,748	8,259	7,764
長期性預金	12,300	12,300	12,300	11,300	11,300	純資産					
長期前払費用	6	3	—	—	—	資本金	246,819	246,819	246,819	246,819	246,819
敷金・保証金	3	3	2	2	1	資本剰余金	△ 6,997	△ 9,087	△ 10,280	△ 10,114	△ 12,588
長期事業未収金	1	1	1	1	1	利益剰余金	1,692	1,080	1,195	1,007	855
長期未収金	15	11	8	6	3	(うち当期未処分利益)	207	109	264	△ 151	△ 152
貸倒引当金	△ 7	△ 5	△ 2	△ 1	△ 2	純資産合計	241,514	238,812	237,734	237,712	235,086
資産合計	246,950	244,349	246,482	245,970	242,850	負債・純資産合計	246,950	244,349	246,482	245,970	242,850

備考(指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

【参考資料3】利益(又は損失)の処分についての経年比較(過去5年分を記載)  
(単位:百万円)

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
I 当期末処分利益					
当期総利益	207	109	264	△ 151	△ 152
前期繰越欠損金	-	-			
II 利益処分量					
積立金	207	109	264	△ 151	△ 152
独立行政法人通則法第44条第3項 により主務大臣の承認を受けた額	-	-	-	-	-

【参考資料4】人員の増減の経年比較(過去5年分を記載) (単位:人)

職種	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
定年制事務職員(管理系)	60	59	62	62	64
定年制事務職員(事業系)	244	243	245	239	231
	304	302	307	301	295

## 独立行政法人日本芸術文化振興会の平成23年度に係る業務の実績に関する評価

段階的評定の区分及び定量的な評価を行う際の各段階別評定の達成度の目安については、次の考え方とする。

S: 特に優れた実績を上げている。

(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。)

A: 中期計画どおり、又は中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調、又は中期目標を上回るペースで実績を上げている。

(当該年度に実施すべき中期計画の達成度が100%以上)

B: 中期計画通りに履行しているとは言えない面もあるが、工夫や努力によって、中期目標を達成し得ると判断される。

(当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%以上100%未満)

C: 中期計画の履行が遅れており、中期目標達成のためには業務の改善が必要である。

(当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%未満)

F: 評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。

(客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限りFの評定を付す。)

# 独立行政法人日本芸術文化振興会の平成23年度に係る業務の実績に関する評価

<p>【(大項目)1】</p>	<p>I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>		
		<p>H20</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>H21</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>H22</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>【(中項目)1-1】</p>	<p>1 文化芸術活動に対する援助 振興会は、我が国の文化芸術活動への援助に関する中核的拠点として、芸術の創造又は普及を図るための活動、地域の文化の振興を目的として行う活動などに対して、多様な資金を活用した文化芸術活動に対する助成金の交付及びこれらに関する情報提供などに積極的に取り組むこと。</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>		
		<p>H20</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>H21</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>H22</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>【(小項目)1-1-1】</p>	<p>助成金の交付</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>		
		<p>H20</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>H21</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>H22</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>【法人の達成すべき計画】</p> <p>1 芸術文化活動に対する援助支援</p> <p>(1)助成金の交付</p> <p>ア 国民が文化芸術に親しみ、自らの手で新しい文化を創造していく環境の醸成とその基盤の強化を図っていくとともに、我が国の芸術水準を向上させていくため、多様な資金を活用し、芸術家及び芸術団体等が実施する次に掲げる活動に対し助成金を交付する。</p> <p>①芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための公演、展示等の活動</p> <p>②文化施設において行う公演、展示等の活動又は文化財を保存し、若しくは活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの</p> <p>③その他、文化に関する団体が行う公演並び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動</p> <p>イ 助成金交付事務の効率化等</p> <p>助成金の交付に際しては、助成金交付事務の効率化、審査手続き等に関する客観性及び透明性の確保並びにより効果的な援助を行う観点から、助成金の申請手続き、審査及び助成方法等について、以下の措置を講ずるとともに、外部専門家等による委員会において審査方法等選考に関する基準を策定・公表する。</p> <p>①地方公共団体、教育委員会との連携協力の推進の検討</p> <p>②助成の成果等に対する評価を踏まえた審査の充実を図るための助成対象活動の実施状況等調査及び調査結果や応募状況等を勘案した効果的かつ効率的な助成についての検討</p> <p>③助成金交付事務に係る情報システムの機能強化及び事務手続き・申請手続きの簡素化等、情報通信技術を活用した申請手続き等の合理化の検討を行い、交付申請書受理から交付決定までの期間については、前中期目標期間の実績以下とする。</p> <p>ウ 助成金の交付に際しては、芸術文化団体等の文化芸術活動の充実・活性化や自助努力の助長など適切な助成効果が得られる</p>		<p>実績報告書等 参照箇所</p> <p>業務実績報告書 1頁～11頁</p>		

よう配慮する。また、芸術文化団体等の自主性を十分尊重することに留意する。  
 オ「独立行政法人整理合理化計画」(平成19年12月24日閣議決定)を踏まえ、平成21年度からを目途に文化庁の助成事業(芸術創造活動重点支援事業、文化芸術振興費補助金)と振興会の助成事業(舞台芸術振興事業、芸術文化振興基金)を統合・一元化することとし、これらのバランスを図り、より効果的な助成を行うことを目標として、平成20年度中に統合・一元化に向けた検討を行い、所要の措置を講じる。その際、全体の助成規模は拡大しないこととする。

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	1,890	6,177	5,819	5,516
従事人員数(人)	15	19	17	19

- 1) 決算額は、印刷製本費、通信運搬費、賃借料、リース料、委員手当、諸謝金、旅費交通費、芸術文化振興基金助成費、特定寄付金助成費、文化芸術振興費を計上している。  
 2) 従事人員数は、基金部の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

評価基準(年度計画及び評価の視点)	実績	分析・評価																																																						
1 文化芸術活動に対する援助 (1) 助成金の交付 ア 芸術文化振興基金(以下「基金」という。)の運用収入等を財源とする助成金の交付に関する計画 次に掲げる活動に対して助成金を交付したか。 ① 芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動 a. 多彩な芸術に親しむ環境の醸成に資する現代舞台芸術の創造普及のための公演活動 b. 伝統芸能に親しむ環境の醸成に資する伝統芸能の保存普及のための公開活動 c. 美術に親しめる環境の醸成に資する美術の創造普及のための展示活動 d. 日本国内において行われる映画祭及び多様な鑑賞機会の充実に資する特色ある日本映画の上映活動 e. 特定の芸術分野にしばら	<p>&lt;1&gt; 助成金の交付</p> <p>1. 23年度助成金の交付実績</p> <p>(1) 芸術文化振興基金助成金(芸術文化振興基金の運用収入等を財源)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>助成対象分野</th> <th>交付件数</th> <th>交付額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現代舞台芸術創造普及活動</td> <td>247件</td> <td>679,500千円</td> </tr> <tr> <td>音 楽</td> <td>53件</td> <td>224,300千円</td> </tr> <tr> <td>舞 踊</td> <td>42件</td> <td>84,800千円</td> </tr> <tr> <td>演 劇</td> <td>152件</td> <td>370,400千円</td> </tr> <tr> <td>伝統芸能の公開活動</td> <td>64件</td> <td>90,100千円</td> </tr> <tr> <td>美術の創造普及活動</td> <td>16件</td> <td>16,700千円</td> </tr> <tr> <td>多分野共同等芸術創造活動</td> <td>20件</td> <td>21,200千円</td> </tr> <tr> <td>国内映画祭等の活動</td> <td>57件</td> <td>137,700千円</td> </tr> <tr> <td>国内映画祭</td> <td>35件</td> <td>112,100千円</td> </tr> <tr> <td>日本上映活動</td> <td>22件</td> <td>25,600千円</td> </tr> <tr> <td>小 計</td> <td>404件</td> <td>945,200千円</td> </tr> <tr> <td>地域文化振興活動</td> <td>224件</td> <td>317,500千円</td> </tr> <tr> <td>文化会館公演活動</td> <td>138件</td> <td>161,800千円</td> </tr> <tr> <td>美術館展示活動</td> <td>86件</td> <td>155,700千円</td> </tr> <tr> <td>歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動</td> <td>12件</td> <td>10,800千円</td> </tr> <tr> <td>民俗文化財の保存活用活動</td> <td>23件</td> <td>17,000千円</td> </tr> <tr> <td>小 計</td> <td>259件</td> <td>345,300千円</td> </tr> </tbody> </table>	助成対象分野	交付件数	交付額	現代舞台芸術創造普及活動	247件	679,500千円	音 楽	53件	224,300千円	舞 踊	42件	84,800千円	演 劇	152件	370,400千円	伝統芸能の公開活動	64件	90,100千円	美術の創造普及活動	16件	16,700千円	多分野共同等芸術創造活動	20件	21,200千円	国内映画祭等の活動	57件	137,700千円	国内映画祭	35件	112,100千円	日本上映活動	22件	25,600千円	小 計	404件	945,200千円	地域文化振興活動	224件	317,500千円	文化会館公演活動	138件	161,800千円	美術館展示活動	86件	155,700千円	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	12件	10,800千円	民俗文化財の保存活用活動	23件	17,000千円	小 計	259件	345,300千円	<p>○我が国の芸術文化の発展向上のため、公平かつ適切な援助・支援を目標に掲げて取り組む姿勢を高く評価したい。</p> <p>○プログラムディレクター、プログラムオフィサーの配置による具体的成果はまだ明らかではないものの、チェック体制の整備は進められていると認められる。</p> <p>○被災地への臨時募集、交付も行われ、適切に配慮されていると評価する。</p> <p>○今後は成果の追跡・検証を行うとともに、評価基準の明確化やチェック体制の整備を図り、助成対象の質の向上に努められたい。</p>
助成対象分野	交付件数	交付額																																																						
現代舞台芸術創造普及活動	247件	679,500千円																																																						
音 楽	53件	224,300千円																																																						
舞 踊	42件	84,800千円																																																						
演 劇	152件	370,400千円																																																						
伝統芸能の公開活動	64件	90,100千円																																																						
美術の創造普及活動	16件	16,700千円																																																						
多分野共同等芸術創造活動	20件	21,200千円																																																						
国内映画祭等の活動	57件	137,700千円																																																						
国内映画祭	35件	112,100千円																																																						
日本上映活動	22件	25,600千円																																																						
小 計	404件	945,200千円																																																						
地域文化振興活動	224件	317,500千円																																																						
文化会館公演活動	138件	161,800千円																																																						
美術館展示活動	86件	155,700千円																																																						
歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	12件	10,800千円																																																						
民俗文化財の保存活用活動	23件	17,000千円																																																						
小 計	259件	345,300千円																																																						

れない活動や、新しい試みなど独創性に富んだ芸術創造活動 ② 地域の文化の振興を目的として行う活動 a. 地域の文化の振興に資する文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動 b. 地域の文化の振興に資する伝統的建造物群、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動 ③ 文化に関する団体が行う文化の振興又は普及を図るための活動 a. 文化の発展普及に資することを主たる目的とするアマチュア等の文化団体が行う公演、展示その他の活動 b. 伝統工芸技術・文化財保存技術の保存・伝承等、我が国の文化財の保存伝承等に資する活動 イ 文化芸術振興費補助金(以下「補助金」という。)を財源とする助成金の交付に関する計画 次に掲げる活動に対して助成金を交付したか。 ① 意欲的な取組みにより我が国の舞台芸術の水準向上の直接的な牽引力となることが期待される芸術性の高い、国内で実施される優れた公演活動 ② 我が国の優れた映画の製作活動を奨励し、映画芸術の振興に資する日本映画の製作活動 ウ 助成金交付事務の効率化等 ① 地域の文化振興等の活動に	アマチュア等の文化団体活動	137件	105,100千円	
	文化振興普及団体活動	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	14件	27,500千円
		小 計	151件	132,600千円
	合 計		814件	1,423,100千円
(2) 文化芸術振興費補助金による助成金(文化芸術振興費補助金を財源)				
	助成対象分野	交付件数	交付額	
舞台芸術公演・伝統芸能等への支援	音 楽	135件	2,008,900千円	
	舞 踊	43件	416,600千円	
	演 劇	163件	893,700千円	
	伝統芸能	34件	61,100千円	
	大衆芸能	20件	98,700千円	
	小 計	395件	3,479,000千円	
映画製作への支援	劇映画	25件	390,000千円	
	記録映画	21件	92,000千円	
	アニメーション映画	5件	49,000千円	
	小 計	51件	531,000千円	
合 計	446件	4,010,000千円		
【特記事項】				
・ 被災地の復興支援を目的として、「国内映画祭等の活動」について臨時募集を行い、平成23年度芸術文化振興基金助成対象活動として追加の交付決定を行った。 募集期間:5/26～6/1、交付決定:6月24日(金) 応募件数26件、採択件数9件、交付金20,900千円				
2. 24年度助成対象活動の募集実績				
(1) 芸術文化振興基金(芸術文化振興基金の運用収入等を財源)				
	助成対象分野	応募件数	採択件数	交付予定額
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	678件	256件	666,500千円
	音 楽	129件	46件	183,000千円
	舞 踊	109件	47件	83,000千円
	演 劇	440件	163件	400,500千円
	伝統芸能の公開活動	90件	53件	63,000千円
	美術の創造普及活動	32件	13件	20,900千円
	多分野共同等芸術創造活動	75件	20件	23,000千円
	国内映画祭等の活動	52件	35件	96,600千円
	小 計	927件	377件	870,000千円
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	354件	214件	311,500千円

については、都道府県に対し、要望書の受付窓口及び推薦に係る業務について協力を求めるとともに、提出された要望書の内容について、都道府県からヒアリングを実施することにより、一層効果的な助成に努めたか。

② 助成対象活動の調査及び効率的・効果的な助成方法についての検討等に関する計画

a. 助成の成果等に対する評価を踏まえた審査の充実を図るため、助成対象活動について外部有識者による公演等調査を行うほか、職員による会計調査及び公演等調査を実施し、審査への反映を図ったか。

・ 会計調査及び公演等調査：300件以上

b. 助成対象分野の現状についての調査結果及び助成対象活動についての公演等調査の結果などを踏まえ、より効果的かつ効率的な助成方策について検討したか。

c. 補助金を財源とする助成金の一部分野について、文化芸術活動への支援に関する専門家を配置し、現場の実情を把握した上で助言等を行い、審査員による専門的な審査・評価に反映させることにより、適切な効果が得られるよう一層の充実を図ったか。

d. 補助金を財源とする助成金の交付に関する助成対象経費の見直し及びそれに伴う助成金の積算方式の変更等については、文化

	文化会館公演活動	216件	133件	153,000千円
	美術館展示活動	138件	81件	158,500千円
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	11件	10件	10,700千円
	民俗文化財の保存活用活動	38件	32件	21,300千円
	小計	403件	256件	343,500千円
文化振興普及団体活動	アマチュア等の文化団体活動	263件	138件	100,600千円
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	13件	10件	20,000千円
	小計	276件	148件	120,600千円
合計		1,606件	781件	1,334,100千円

注：芸術創造普及活動のうち、国内映画祭等の活動には、第2回募集分は含まれていない。

(2) 文化芸術振興費補助金による助成金(文化芸術振興費補助金を財源)

助成対象分野		応募件数	採択件数	交付予定額
舞台芸術公演・伝統芸能等への支援	音楽	180件	120件	1,777,000千円
	舞踊	56件	35件	409,000千円
	演劇	249件	133件	793,000千円
	伝統芸能	55件	33件	57,000千円
	大衆芸能	27件	21件	92,000千円
	小計	567件	342件	3,128,000千円
映画製作への支援	劇映画	34件	12件	170,000千円
	記録映画	17件	8件	41,000千円
	アニメーション映画	7件	4件	46,000千円
	小計	58件	24件	257,000千円
合計		625件	366件	3,385,000千円

注：映画製作への支援には、第2回募集分は含まれていない。

<2> 助成金交付事務の効率化等

1. 都道府県との協力

都道府県経由で応募を受け付ける助成活動については、都道府県担当者を対象とした助成活動募集の説明会を実施するとともに、都道府県経由で応募のあった活動については、都道府県担当者からヒアリングを実施した。

2. 助成対象活動の調査及び助成方法の検討

(1) 助成対象活動に対する調査(目標：300件以上)

区分	実績
会計調査	101件 (調査活動 266件)

庁と協議のうえ、適正な執行を図ったか。

③ 助成金交付事務に係る助成システムについて、事務手続き等の簡素・合理化が行われるよう、応募書類の電子データによる受付・管理など実務の実態を踏まえたシステムの機能強化を図ったか。

基金及び補助金の助成事業の交付申請書受理から交付決定までの期間について40日以下としたか。

④ 助成金の交付対象を適切に判断するため、各専門委員会において審査の方法等選考に関する基準を策定し、ホームページ及び冊子で公表することにより、公平・公正性の担保を図ったか。

エ 芸術文化団体等の自主性を尊重しつつ、活動の実態に応じて効果的に実施したか。

公演等調査	553 件 (調査活動 553 件)
合計	654 件 (調査活動 819 件)

(2) 調査結果を踏まえた効果的かつ効率的な助成方策の検討

助成対象活動に係る「助成の効果」について、22 年度助成対象活動実績報告書に記載された内容の整理、分類を実施した。

○ 集計結果:調査対象件数 1,343 件(複数回答を含む)

事 項	件数
団体(構成員等)の経済的負担が軽減され、活動に専念でき、内容の充実を図ることができた。	639 件
宣伝広告等を充実させることができ、周知の機会が増えた	332 件
チケット単価を安くして、特定層以外の観客を集める機会を得た	296 件
活動内容(回数、演目、曲目、ワークショップ、図録等)の充実を図ることができた	243 件
当初の計画通りに活動が実施できた	219 件
チケット単価を安くして、集客目標を達成することができた	214 件
補助金・協賛金・銀行融資等を受けやすくなったなど、対外的信用度が増大した	89 件
小・中・高生等を無料招待することができた	87 件
国際交流を行うことができた	44 件
地域の方に質の高い公演・活動を見せることができた	28 件
活動が地域に浸透し、地域に根ざした活動として発展することができた	20 件
質の高い外部の出演者・演出者・舞台スタッフ及び展示品等により活動を実施できた	18 件
質の高い会場・設営・舞台設備により活動を実施できた	16 件
団体の今後の活動におけるの向上心・発展性につながった	13 件
十分な撮影体制(フィルムで撮影・撮影日数を増やす等)により、質の高い作品ができた	11 件
編集・仕上げ・特殊効果等、充実を図ることができた	10 件
県内外からの来場者により地域が活性化した	8 件
創造的・実験的事業(団体にとっての挑戦的な演目)の活動を実施した	5 件
地域住民参加による活動が実施できた(出演者・裏方・ボランティア)	5 件
県内外からの来場者により地域が活性化した	5 件
ロケ地での協力(現場使用・エキストラ参加等)を得ることができた	4 件
団体内で技術の向上が見られた	4 件
地域の文化団体と他の文化団体との交流が持てた	4 件
活動が採択されて、団体にとって励みとなった	3 件
団体(又は活動)の外部評価が向上した(活動前の広報、活動後の評価)	3 件

(3)文化芸術活動への支援に関する専門家の配置

当振興会が行う文化芸術活動に対する助成事業をより効果的なものとするため、専門的な知識や調査 研究に基づく助言、情報提供等を行うプログラムディレクター及びプログラムオフィサーを設置した。

平成 23 年度には試行的に導入することとし、音楽分野でプログラムディレクター1 名、プログラムオフィサー3 名及び舞踊分野でプログラムディレクター1 名、プログラムオフィサー3 名を配置した。

(4)補助金を財源とする助成金の交付に関する助成対象経費の見直し、助成金の積算方式の変更等

平成23年度の助成から、一定期間安定した芸術創造活動が実施できるよう、1事業単位の支援を行うだけでなく、年間の優れた芸術創造活動を事業毎に積み重ねた年間型事業支援の制度を導入するとともに文化芸術団体にとって、より経営努力のインセンティブが働くよう、本番以前の芸術創造活動と本番当日の公演活動に分け、芸術創造活動に必要な音楽費・文芸費・稽古費等を支援する制度に見直し変更した。

3. 事務手続き等の簡素化・合理化

(1) 情報システムの機能強化等

新たな補助制度の導入に伴い、基金助成システムを見直すとともに入力作業等の簡素化を図った。

また、助成金交付要望書など申請書類のインターネットによる受付について検討を開始した。

(2) 助成金の交付申請書受理から交付決定までの期間の短縮

区 分	実 績	目 標
芸術文化振興基金助成金	25.7 日	40.0 日
文化芸術振興費補助金による助成金	27.5 日	40.0 日
全 体	26.6 日	40.0 日

4. 各専門委員会における選考に関する基準の策定と公表

(1) 24 年度助成対象活動の審査状況

芸術文化振興基金運営委員会及び 4 部会、12 専門委員会において、以下のとおり審査を行った。

①芸術文化振興基金運営委員会

第 24 回:6 月 23 日、第 25 回:9 月 15 日、第 26 回:1 月 31 日、第 27 回:3 月 15 日

②舞台芸術等部会(2 回開催・3 月)

- ・音楽専門委員会(2 回開催・12 月、2 月)
- ・舞踊専門委員会(2 回開催・12 月、2 月)
- ・演劇専門委員会(3 回開催・12 月:合同 1 回、2 月:第 1 分科会 1 回、第 2 分科会 1 回)
- ・伝統芸能・大衆芸能専門委員会(2 回開催・12 月、2 月)
- ・美術専門委員会(2 回開催・11 月、2 月)

③映像芸術部会(1 回開催・3 月)

- ・劇映画専門委員会(2 回開催・12 月、3 月)
- ・記録映画専門委員会(2 回開催・12 月、2 月)
- ・アニメーション映画専門委員会(2 回開催・12 月、3 月)
- ・映画祭等専門委員会(2 回開催・12 月、2 月)

④地域文化・文化団体活動部会(1 回開催・3 月)

- ・地域文化活動専門委員会(2 回開催・11 月、2 月)
- ・文化団体活動専門委員会(2 回開催・11 月、2 月)

⑤文化財部会(1 回開催・3 月)

・文化財保存活用専門委員会(2回開催・11月、2月)

○審査経過概要

9月15日	第25回芸術文化振興基金運営委員会を開催し、平成24年度の助成活動募集案内の内容等を了承。
11月中旬～12月中旬	各専門委員会において、事前審査及び合議審査に先立ち、「専門委員会における審査の方法等について」を審議、決定。
12月下旬～2月下旬	各専門委員会による応募活動1件ごとの事前審査。
1月31日	第26回芸術文化振興基金運営委員会を開催し、応募状況についての報告及び助成金の分野別配分予算案について審議、決定。
2月上旬～3月上旬	各専門委員会において、事前審査の集計結果をもとに、合議審査により、助成金交付要望書の審査及び助成対象活動を選定。
3月上旬～3月中旬	各部会において助成対象活動の採否及び助成金交付予定額の審議。
3月15日	第27回芸術文化振興基金運営委員会を開催し、助成対象活動及び助成金交付予定額について審議、決定。

(2) 選考に関する基準の策定と公表

文化芸術振興費補助金による助成事業(舞台芸術公演・伝統芸能等の支援)の一部の分野(音楽分野、舞踊分野)について、事前にホームページ等を通じて審査基準を公表した。

また、平成24年度の助成対象活動として内定した活動について、活動名、助成金交付予定額、審査にあたった委員の氏名、審査経過、審査の方法等について公表した(芸術文化振興基金助成事業は平成24年3月29日。文化芸術振興費補助金による助成事業は4月9日)。

(3) 23年度助成対象活動の決定に関する公表状況

平成23年3月30日付けで助成活動を決定、ホームページ等で公表した。

また、広報誌「芸術文化振興基金No.26」(23年6月30日発行)で助成対象活動一覧のほか審査経過等も含め掲載するとともに、併せて同誌に掲載のデータをホームページで公表した。

<3>芸術文化団体等の自主性の尊重、活動実態に応じた効果的な助成の実施

平成23年度から音楽分野及び舞踊分野にプログラムディレクター及びプログラムオフィサーを配置し、助成団体との意見交換の場を設けるなど、団体の活動に関し、幅広く助言等を行った。

・開催日時:平成23年10月13日～15日 大阪・文楽劇場、参加団体10団体

・開催目的:団体の助成活動に関する意見交換

【特記事項】

芸術文化団体等からの相談に適切に対応し、的確な助言を行うためには、基金部職員が芸術文化活動の動向等について広く把握しておくことが大切であることに鑑み、基金部職員等を対象とする次の研修を行った。このような研修を継続することにより、職員の能力向上を図っていききたい。

平成24年1月17日(火) 講師:大島秀夫(演劇:株式会社 銀河劇場 代表取締役)

講義内容:活動の企画から活動終了後までの流れと申請者サイドから望むこと 参加者数:28名

【(小項目)1-1-2】 芸術団体等に対する各情報等の収集及び提供		【評定】		
<b>【法人の達成すべき計画】</b> (2) 助成に関する情報等の収集及び提供 文化芸術活動に対する援助の中核的拠点として、文化芸術活動に関する情報を収集し、データベース化やホームページを通じた提供等を推進する。ホームページにおいては、募集案内、助成対象活動をはじめとする芸術文化団体等に対する各種情報等の提供を充実させ、中期目標期間のアクセス件数を前中期目標期間の実績以上とする。また、広報誌を定期的に発行する。		A		
		H20	H21	H22
		A	A	A
		<b>実績報告書等 参照箇所</b>		
		業務実績報告書 12頁～14頁		
<b>【インプット指標】</b>				
(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	9	13	9	12
従事人員数(人)	15	19	17	19
1) 決算額は、新聞と諸費、印刷製本費、通信運搬費を計上している。 2) 従事人員数は、基金部の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。				
<b>評価基準(年度計画及び評価の視点)</b>	<b>実績</b>			<b>分析・評価</b>
1 文化芸術活動に対する援助 (2) 助成に関する情報等の収集及び提供 ア ホームページにおいては、募集案内、助成対象活動をはじめとする芸術団体等に対する各種情報等、提供する情報の充実を図るとともに、迅速化に努めたか。 また、文化芸術活動に対する援助の中核的拠点として、文化芸術活動へ助成を行う民間助成団体に関する情報のデータベースを更新して提供するとともに、今後もインターネットによる広報の有効性に着目し、ホームページの一層の利便性向上に努めたか。 ・ 目標アクセス件数：126,000件 イ 基金の助成業務を周知するために、広報誌・チラシを作成・配	<b>&lt;5&gt; 助成に関する情報等の収集及び提供</b> 1. ホームページの利便性の向上 (1) 23年度アクセス件数：134,572件(目標 126,000件) (2) ホームページの構成・内容を随時見直し、利便性の向上を図っている。 2. 助成事業の周知 (1) 平成 23 年度助成対象活動等を掲載した広報誌「芸術文化振興基金No.26」(6月30日)を発行するとともにホームページを通じて助成事業の周知を図った。 (2) 基金助成事業に関するチラシの他、23年度は新たに芸術文化復興支援基金及び芸術文化振興基金賛助会員制度に関するリーフレット等を作成・配布するなど、助成事業に関し幅広く広報活動を行った。 ① 助成団体から活動時に配布してもらう広報用チラシ 442 件、455,110 枚配布。 ② 芸術文化復興支援基金リーフレット、ポスター、チラシの作成・配布 ③ 芸術文化振興基金賛助会員制度に関するリーフレットの作成・配布 (3) 当振興会が行っている助成事業の概要を紹介したパンフレット(二つ折り「基金の概要」)を作成・配布した。 (4) 助成団体に、活動時会場等に掲出してもらう広報用ポスターを新たに作成・配付(204 件、713 枚掲出)した。なお、広報用チラシ・ポスターについては平成 24 年度芸術文化振興基金助成対象活動採択団体すべてに送付し、活動実施時の広報に協力を依頼した。 3. 助成対象活動の募集 (1) 「日本芸術文化振興会ニュース」及び「文化庁月報」に、基金の概要、助成対象活動の募集案			○ 助成事業について、ポスター・チラシやパンフレットの作成配布、また各地での募集説明会の開催など広報活動の拡大に力を注いだことは評価する。  ○ 一方で、基金ホームページへのアクセス件数が、年度目標は達成しているものの、平成 22 年度と比較して約 10,000 件減少しており、その理由を分析し、対策を講じることが必要である。また、募集説明会への参加及び参加者の応募の状況や、応募者の情報入手経路を分析する等、公平性の観点から制度の更なる周知を徹底することが求められる。

<p>布したか。</p> <p>ウ 助成対象活動の募集に当たっては、芸術関係誌等への広告掲載及びホームページへの情報掲載を行うとともに、地方公共団体及び全国の公立文化施設等へポスター等を配布したか。</p> <p>エ 芸術団体等を対象とした助成対象活動の募集説明会について、東京、大阪に加え、他地域でも開催したか。</p>	<p>内等の記事を掲載した。(毎月)</p> <p>(2) 24年度助成対象活動募集の広告を雑誌等に掲載した。(音楽、舞踊、演劇、美術、映画、博物館、社会教育関係各誌 28誌、9月上旬～10月下旬)</p> <p>(3) 24年度助成対象活動募集案内ポスターを都道府県、政令指定都市、公立文化施設、大学などに送付し、広報への協力を依頼した。</p> <p>4. 助成対象活動の募集説明会の開催</p> <p>① 福岡県開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月27日(火)地域文化振興活動、文化振興普及団体活動等団体対象 会場:北九州市立商工貿易会館(シティプラザ)多目的ホール、参加数:60団体、85名</li> <li>・ 9月28日(水):音楽、舞踊、演劇、伝統芸能・大衆芸能、美術等主として芸術団体等対象 会場:北九州市立商工貿易会館(シティプラザ)多目的ホール、参加数:26団体、29名</li> </ul> <p>② 大阪府開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月29日(木):音楽、舞踊、演劇、伝統芸能・大衆芸能、美術等主として芸術団体等対象 会場:ホテルアウイーナ大阪、参加数:133団体、165名</li> <li>・ 10月12日(水):映画製作団体、映画祭等上映団体対象 会場:国立文楽劇場 小ホール、参加数:15団体、18名</li> </ul> <p>③ 東京都開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10月4日(火):映画製作団体、映画祭等上映団体対象 会場:国立劇場 伝統芸能情報館レクチャー室、参加数:149団体、206名</li> <li>・ 10月5日(水)～6日(木):地域文化振興活動、文化振興普及団体活動等 都道府県担当者対象 会場:国立劇場 第一会議室、参加数:37団体、37名</li> <li>・ 10月7日(金):音楽、舞踊、演劇、伝統芸能・大衆芸能、美術等主として芸術団体等対象 会場:日本青年館 大ホール、参加数:525団体、723名</li> </ul> <p>5. 寄付金増額への取組み</p> <p>(1)寄付先への感謝状の贈呈並びにホームページ等での広報</p> <p>原則 10万円を超える寄付(出えん金収入)者(団体)については、通常の礼状に加え感謝状を贈呈したほか、承諾を得た寄付者(団体)については、寄付者(団体)名をホームページで広報するなど寄付金の増額に向けて取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芸術文化振興基金への寄付金の税制上の優遇措置について、「日本芸術文化振興会ニュース」およびホームページにおいて広報し、寄付を呼びかけた。 芸術文化支援基金への寄付:23年度実績 9件 276,581円</li> </ul> <p>(2)「社会貢献寄付信託」の受入に向けた取組み</p> <p>昨今、社会的に進められている「社会貢献寄付信託」について、住友信託銀行の「社会貢献寄付信託」の文化芸術分野の寄付先として、芸術文化振興基金の登録が23年度に完了した。文化芸術分野における唯一の受入機関として、その受け入れに必要な環境を整備するとともに、寄附受入に向け関係金融機関と連携し広報活動を行った。</p> <p>(3)「芸術文化振興基金賛助会員制度」の立ち上げ</p> <p>芸術文化振興基金への寄付受入れを増やすため、新たに、「芸術文化振興基金賛助会員制度」を立ち上げ、寄付金の増額に向け、環境を整備した。</p> <p>(4)「芸術文化復興支援基金」の立ち上げ</p>	
---	--	--

	<p>東日本大震災における被災地の復興支援を目的とする芸術文化活動を支援するため、「芸術文化復興支援基金」を立ち上げ、支援に必要な資金確保に向け、募金活動を開始した。</p> <p>・芸術文化復興支援基金:23年度実績 1,758,162円</p>	
--	--	--

【(小項目)1-1-3】 基金の管理運用		【評定】		
<b>【法人の達成すべき計画】</b> エ 芸術文化振興基金の管理運用については、安全性を重視するとともに、安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の正確な把握に努め、各年度に定める運用方針のもとに、効率的な方法により行う。		A		
		H20	H21	H22
		A	A	A
		実績報告書等 参照箇所		
		業務実績報告書 14 頁		
<b>【インプット指標】</b>				
(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	1,775	1,657	1,379	1,520
従事人員数(人)	7	8	7	6
1) 決算額は、新聞と諸費、印刷製本費、通信運搬費を計上している。 2) 従事人員数は、基金部の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。				
評価基準(年度計画及び評価の視点)	実績			分析・評価
1 文化芸術活動に対する援助 (1) 助成金の交付 オ 基金の管理運用については、安全性を重視するとともに、安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の正確な把握に努め、振興会に設置する資金管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施したか。 カ 平成 21 年度に統合・一元化した助成事業について、引き続き円滑・効率的に実施するとともに、説明会の充実やホームページでの情報提供に努めたか。	<b>&lt;4&gt; 芸術文化振興基金の管理運用</b> (1) 運用益 1,454,094 千円(当初計画 1,511,921 千円、57,827 千円の減) (2) 利回り 2.21%(当初計画 2.30%) 基金の管理運用については、安全性を重視するとともに安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の正確な把握に努めた。 20 年 4 月に設置した資金管理委員会において、運用の基本的考え方を定めるとともに金融商品・再運用先等の検討を行うことにより、低金利下においても必要とする運用益が得られるよう、リスクとリターンを考慮しながら引き続き効率的な管理運用に努めた。			○低金利下において、評価すべき管理運用を行っていると思われる。

<p>【(中項目)1-2】</p>	<p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p> <p>伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前期中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、次のとおり伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、次の観点からこれらの公演の充実等を図ること。</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>																																											
		H20	H21	H22																																									
		A	A	A																																									
<p>【(小項目)1-2-1】</p>	<p>伝統芸能の公開</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>																																											
		H20	H21	H22																																									
		A	A	A																																									
<p>【(細目)1-2-1-①】</p>	<p>伝統芸能の公開</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>																																											
		H20	H21	H22																																									
		A	A	A																																									
<p>【法人の達成すべき計画】</p>		<p><b>実績報告書等 参照箇所</b></p>																																											
<p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 [伝統芸能の公開]</p>		<p>業務実績報告書 15頁～70頁</p>																																											
<p>(1) 伝統芸能の公開</p>		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 15%;">H20</th> <th style="width: 15%;">H21</th> <th style="width: 15%;">H22</th> <th style="width: 15%;">H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歌舞伎</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>文楽</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>大衆芸能</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>能楽</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>組踊等 沖縄伝 統芸能</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>演目の</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>					H20	H21	H22	H23	歌舞伎	A	A	A	A	文楽	A	A	A	A	舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか	A	A	A	A	大衆芸能	A	A	A	A	能楽	A	A	A	A	組踊等 沖縄伝 統芸能	A	B	B	A	演目の	A	A	A	A
	H20	H21	H22	H23																																									
歌舞伎	A	A	A	A																																									
文楽	A	A	A	A																																									
舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか	A	A	A	A																																									
大衆芸能	A	A	A	A																																									
能楽	A	A	A	A																																									
組踊等 沖縄伝 統芸能	A	B	B	A																																									
演目の	A	A	A	A																																									
<p>伝統芸能の公開については、つとめて古典伝承のままの姿で、なるべく広く、各種の伝統芸能の演出や技法を尊重しながら、その正しい維持と保存に努めることとし、中期目標の期間中以下のとおり伝統芸能の公開を行う。</p>																																													
<p>ア 歌舞伎公演</p>																																													
<p>原典を尊重し、筋の展開が理解しやすい「通し狂言」での上演を基本とし、その上で上演の途絶えた優れた演目の復活上演、途絶えつつある演出や場面の復活、新歌舞伎等の見直し、歌舞伎の新作の上演、解説を付した入門公演等に努め、歌舞伎の継承と普及を図る。年間7公演程度実施する。</p>																																													
<p>イ 文楽公演</p>																																													
<p>筋の展開が理解しやすい「通し狂言」や、観客層の拡大を図るため現代の嗜好を活かし、見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等の様々な上演形態により鑑賞できる機会を提供する。また、伝統を基盤にした新作の上演や中絶した古典演目の復活上演等にも取り組み、文楽の継承と普及を図る。年間10公演程度実施する。</p>																																													
<p>ウ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等公演</p>																																													
<p>それぞれの芸能について、質の高い技芸の公開を基本としつつ、芸能の希少性や芸能史上の価値の再認識をもたらす公演、特定のテーマにより構成した企画性が高い公演等の実施により、多様な芸能の継承と普及を図る。全体で年間21公演程度実施する。</p>																																													
<p>エ 大衆芸能公演</p>																																													
<p>落語、講談、浪曲、漫才をはじめ、奇術、太神楽(曲芸)等、寄席を中心に受け継がれてきた伝統的な大衆芸能について、多彩な出演者により企画性の高い公演を実施するなど幅広く鑑賞できる機会を提供し、その技芸の向上に資するとともに、観客層の拡大に努め、これらの継承と普及を図る。年間65公演程度実施する。</p>																																													
<p>オ 能楽公演</p>																																													
<p>伝統的な能狂言の演目と各流の演者を能楽全体を見渡す視点に立って組み合わせ、年間を通じて上演するとともに、解説を付した公演の実施や新作能狂言、復曲の試みなど、多様な活動により能楽の継承と普及を図る。年間51公演程度実施する。</p>																																													

カ 組踊等沖縄伝統芸能公演

組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居等の鑑賞機会を提供するとともに、本土の芸能やアジア・太平洋地域の芸能などの公演を実施し、沖縄の伝統的な芸能の継承及び普及を図る。年間30公演程度実施する。

キ 演目の拡充

演目の拡充を図るため、優れた作品で上演が途絶えたものを復活して上演するための調査研究を行い、また新作の脚本について募集等を行う。

拡充				
----	--	--	--	--

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23
歌舞伎 決算額(百万円)	収入 860 支出 804	収入 827 支出 884	収入 835 支出 875	収入 848 支出 874
歌舞伎 従事人員数(人)	5	5	5	5
文楽 決算額(百万円)	収入 692 支出 618	収入 767 支出 625	収入 695 支出 624	収入 647 支出 629
文楽 従事人員数(人)	12	12	12	13
舞踊・邦楽ほか 決算額(百万円)	収入 83 支出 97	収入 73 支出 110	収入 68 支出 97	収入 79 支出 111
舞踊・邦楽ほか 従事人員数(人)	12	12	12	13
大衆芸能 決算額(百万円)	収入 99 支出 61	収入 106 支出 77	収入 92 支出 58	収入 89 支出 55
大衆芸能 従事人員数(人)	11	10	10	10
能楽 決算額(百万円)	収入 124 支出 106	収入 119 支出 99	収入 107 支出 88	収入 115 支出 99
能楽 従事人員数(人)	5	5	5	5
組踊等沖縄伝統芸能 決算額(百万円)	収入 29 支出 61	収入 30 支出 56	収入 32 支出 64	収入 35 支出 64
組踊等沖縄伝統芸能 従事人員数(人)	2	2	2	2
演目の拡充 決算額(百万円)	46	46	34	41

演目の拡充 従事人員数(人)	49	48	48	50
-------------------	----	----	----	----

- 1) 決算額は、
- ・振興会：各ジャンルの入場料収入及び公演費を計上。演目の拡充は、公演費のうち文芸費を計上している(再掲)
  - ・おきなわ財団：劇場入場料収入(財団自己財源)、公演費(財団自己財源)を計上している。
- 2) 従事人員数は、各館の制作担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。
- ・歌舞伎(第1制作課)
  - ・文楽(第2制作課、文楽劇場企画制作課企画制作係)
  - ・舞踊・邦楽ほか(第2制作課、文楽劇場企画制作係)
  - ・大衆芸能(演芸課、文楽劇場企画制作課企画制作係)
  - ・能楽(能楽堂企画制作課企画制作係)
  - ・組踊等沖縄伝統芸能(総務課おきなわ係)
  - ・演目の拡充(おきなわ係除く上記及び文芸課)
- その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

評価基準(年度計画及び評価の視点)	実績	分析・評価																																																																																																																																						
<p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p> <p>(1) 伝統芸能の公開</p> <p>ア 伝統芸能の保存振興を図るため、中期計画の方針に従い、平成23年度年度計画[別表1]のとおり主催公演を実施したか。</p> <p>イ 演目の拡充</p> <p>① 歌舞伎について、平成17年度に作成した「復活上演候補演目一覧」に基づき、上演候補台本準備稿の作成作業を進めるとともに、「復活上演候補演目一覧」の見直しを継続したか。</p> <p>② 歌舞伎の新作脚本募集について、平成23年度中に新規募集を行ったか。なお、選考及び表彰は平成24年度に行う予定。</p> <p>③ 文楽について、復曲作品及び新作の上演を検討したか。また、レパートリーの拡充を図るため、作曲等の上演準備作業を進めたか。</p> <p>④ 大衆芸能の新作脚本募集について、「落語」の募集、審査を行い、優秀な作品を表彰した</p>	<p>1. 公演実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分野名</th> <th>公演数 会場</th> <th>区分</th> <th>回数</th> <th>日数</th> <th>入場者数</th> <th>入場率</th> <th>総席数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">歌舞伎</td> <td rowspan="2">7 公演 本館大劇場</td> <td>実績</td> <td>212 回</td> <td>167 日</td> <td>216,897 人</td> <td>(68.9%)</td> <td>314,765 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>213 回</td> <td>168 日</td> <td>236,000 人</td> <td>(72.9%)</td> <td>323,760 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">文楽</td> <td rowspan="2">10 公演 本館小劇場、文楽劇場</td> <td>実績</td> <td>371 回</td> <td>176 日</td> <td>164,918 人</td> <td>(67.5%)</td> <td>244,357 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>371 回</td> <td>176 日</td> <td>171,990 人</td> <td>(70.4%)</td> <td>244,357 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等</td> <td rowspan="2">22 公演 本館大小劇場、文楽劇場</td> <td>実績</td> <td>36 回</td> <td>27 日</td> <td>19,765 人</td> <td>(77.5%)</td> <td>25,505 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>35 回</td> <td>26 日</td> <td>19,460 人</td> <td>(77.8%)</td> <td>25,009 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">舞踊</td> <td rowspan="2">5 公演 本館大小劇場、文楽劇場</td> <td>実績</td> <td>10 回</td> <td>8 日</td> <td>4,726 人</td> <td>(68.8%)</td> <td>6,868 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>10 回</td> <td>7 日</td> <td>5,010 人</td> <td>(72.9%)</td> <td>6,868 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">邦楽</td> <td rowspan="2">6 公演 本館小劇場、文楽劇場</td> <td>実績</td> <td>11 回</td> <td>7 日</td> <td>5,046 人</td> <td>(75.8%)</td> <td>6,653 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>10 回</td> <td>7 日</td> <td>5,010 人</td> <td>(82.6%)</td> <td>6,063 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">雅楽</td> <td rowspan="2">1 公演 本館大劇場</td> <td>実績</td> <td>1 回</td> <td>1 日</td> <td>1,555 人</td> <td>(96.6%)</td> <td>1,610 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>1 回</td> <td>1 日</td> <td>1,500 人</td> <td>(93.2%)</td> <td>1,610 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">声明</td> <td rowspan="2">1 公演 本館小劇場</td> <td>実績</td> <td>2 回</td> <td>1 日</td> <td>932 人</td> <td>(79.0%)</td> <td>1,180 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>2 回</td> <td>1 日</td> <td>1,100 人</td> <td>(93.2%)</td> <td>1,180 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">民俗芸能</td> <td rowspan="2">2 公演 本館小劇場</td> <td>実績</td> <td>4 回</td> <td>3 日</td> <td>2,071 人</td> <td>(90.6%)</td> <td>2,286 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>4 回</td> <td>2 日</td> <td>1,540 人</td> <td>(65.3%)</td> <td>2,360 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">琉球芸能</td> <td rowspan="2">1 公演 本館小劇場</td> <td>実績</td> <td>2 回</td> <td>1 日</td> <td>767 人</td> <td>(65.0%)</td> <td>1,180 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>2 回</td> <td>2 日</td> <td>920 人</td> <td>(78.0%)</td> <td>1,180 人</td> </tr> </tbody> </table>	分野名	公演数 会場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	歌舞伎	7 公演 本館大劇場	実績	212 回	167 日	216,897 人	(68.9%)	314,765 人	計画	213 回	168 日	236,000 人	(72.9%)	323,760 人	文楽	10 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	371 回	176 日	164,918 人	(67.5%)	244,357 人	計画	371 回	176 日	171,990 人	(70.4%)	244,357 人	舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等	22 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	36 回	27 日	19,765 人	(77.5%)	25,505 人	計画	35 回	26 日	19,460 人	(77.8%)	25,009 人	舞踊	5 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	10 回	8 日	4,726 人	(68.8%)	6,868 人	計画	10 回	7 日	5,010 人	(72.9%)	6,868 人	邦楽	6 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	11 回	7 日	5,046 人	(75.8%)	6,653 人	計画	10 回	7 日	5,010 人	(82.6%)	6,063 人	雅楽	1 公演 本館大劇場	実績	1 回	1 日	1,555 人	(96.6%)	1,610 人	計画	1 回	1 日	1,500 人	(93.2%)	1,610 人	声明	1 公演 本館小劇場	実績	2 回	1 日	932 人	(79.0%)	1,180 人	計画	2 回	1 日	1,100 人	(93.2%)	1,180 人	民俗芸能	2 公演 本館小劇場	実績	4 回	3 日	2,071 人	(90.6%)	2,286 人	計画	4 回	2 日	1,540 人	(65.3%)	2,360 人	琉球芸能	1 公演 本館小劇場	実績	2 回	1 日	767 人	(65.0%)	1,180 人	計画	2 回	2 日	920 人	(78.0%)	1,180 人	<p>○伝統芸能の各ジャンルで安定的な観客動員を実現していることに加え、歌舞伎の復活上演も、単なる研究的価値だけでなく、国民的エンターテインメントとして持つべき現代的な創造性、話題性のある作品を上演したことは大いに評価できる。</p> <p>○しかし、歌舞伎、文楽、舞踊、邦楽、声明、琉球芸能、大衆芸能の入場率は計画に対し未達であると共に、昨年度比も減少している。減少、未達の要因が真に東日本大震災の影響であるかを分析し、対策を講じることが必要である。</p> <p>【歌舞伎】</p> <p>○国立劇場 45 周年にふさわしい意欲的な企画を並べたことは評価できる。</p> <p>○しかし、入場率は前年度比 6.5%減で計画に対して未達である。公演によ</p>
分野名	公演数 会場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数																																																																																																																																	
歌舞伎	7 公演 本館大劇場	実績	212 回	167 日	216,897 人	(68.9%)	314,765 人																																																																																																																																	
		計画	213 回	168 日	236,000 人	(72.9%)	323,760 人																																																																																																																																	
文楽	10 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	371 回	176 日	164,918 人	(67.5%)	244,357 人																																																																																																																																	
		計画	371 回	176 日	171,990 人	(70.4%)	244,357 人																																																																																																																																	
舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等	22 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	36 回	27 日	19,765 人	(77.5%)	25,505 人																																																																																																																																	
		計画	35 回	26 日	19,460 人	(77.8%)	25,009 人																																																																																																																																	
舞踊	5 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	10 回	8 日	4,726 人	(68.8%)	6,868 人																																																																																																																																	
		計画	10 回	7 日	5,010 人	(72.9%)	6,868 人																																																																																																																																	
邦楽	6 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	11 回	7 日	5,046 人	(75.8%)	6,653 人																																																																																																																																	
		計画	10 回	7 日	5,010 人	(82.6%)	6,063 人																																																																																																																																	
雅楽	1 公演 本館大劇場	実績	1 回	1 日	1,555 人	(96.6%)	1,610 人																																																																																																																																	
		計画	1 回	1 日	1,500 人	(93.2%)	1,610 人																																																																																																																																	
声明	1 公演 本館小劇場	実績	2 回	1 日	932 人	(79.0%)	1,180 人																																																																																																																																	
		計画	2 回	1 日	1,100 人	(93.2%)	1,180 人																																																																																																																																	
民俗芸能	2 公演 本館小劇場	実績	4 回	3 日	2,071 人	(90.6%)	2,286 人																																																																																																																																	
		計画	4 回	2 日	1,540 人	(65.3%)	2,360 人																																																																																																																																	
琉球芸能	1 公演 本館小劇場	実績	2 回	1 日	767 人	(65.0%)	1,180 人																																																																																																																																	
		計画	2 回	2 日	920 人	(78.0%)	1,180 人																																																																																																																																	

か。優れた入賞作品は今後の公演において上演を検討したか。

⑤ 能楽について、新才能を委嘱制作したか。また、室町時代の世阿弥の自筆本による能の復曲再演を行ったか。

⑥ 組踊等沖縄伝統芸能について、新作組踊及び新作の沖縄芝居等の上演を行ったか。

[平成 23 年度年度計画別表 1 の概要]

(1) 伝統芸能の公開

- ① 歌舞伎 7 公演(本公演 5、鑑賞教室 2)
- ② 文楽 10 公演(本公演 8、鑑賞教室 2)
- ③ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等 22 公演
- ④ 大衆芸能 65 公演
- ⑤ 能楽 51 公演(定期公演 20、普及公演 11、企画公演 19、鑑賞教室 1)
- ⑥ 組踊等沖縄伝統芸能 30 公演(定期公演 17、企画公演 7、研究公演 1、普及公演 5)

特別企画	6 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	6 回	6 日	4,668 人	(81.5%)	5,728 人
		計画	6 回	6 日	4,380 人	(76.2%)	5,748 人
大衆芸能	65 公演 演芸場、文楽劇場小ホール	実績	317 回	289 日	48,978 人	(53.3%)	91,887 人
		計画	316 回	289 日	54,650 人	(59.7%)	91,587 人
能楽	51 公演 能楽堂	実績	61 回	56 日	35,926 人	(93.9%)	38,247 人
		計画	61 回	56 日	36,143 人	(94.5%)	38,247 人
小計	155 公演	実績	997 回	715 日	486,484 人	(68.1%)	714,761 人
		計画	996 回	715 日	518,243 人	(71.7%)	722,960 人
組踊等 沖縄伝統芸能	31 公演 国立劇場おきなわ大小劇場	実績	43 回	38 日	17,424 人	(69.2%)	25,179 人
		計画	44 回	39 日	16,529 人	(63.3%)	26,092 人
総合計	186 公演	実績	1,040 回	753 日	503,908 人	(68.1%)	739,940 人
		計画	1,040 回	754 日	534,772 人	(71.4%)	749,052 人

- 1) 3 月歌舞伎公演「一谷嫩軍記」は、政府主催「東日本大震災一周年追悼式」開催のため、3 月 11 日(日)の公演を中止した。
- 2) 国立劇場おきなわの 5 月沖縄芝居公演「多幸山」は、台風 2 号接近の影響により全 2 回のうち 1 回を中止した。
- 3) 国立劇場おきなわ 9 月企画公演「新作組踊 サシバの契り」は、台風 15 号接近により全 2 回の公演を中止したが、1 月 12 日(木)に延期して 1 回の公演を行った。

2. 演目の拡充

- (1) 復活上演候補演目の上演候補台本準備稿の作成作業  
候補作品のうち、「有職鎌倉山」の準備稿と「命懸色の二番目」の上演プランにつき、復活上演候補作品調査検討委員会委員と内容を検討するとともに、各委員より準備稿の進捗状況の報告や新規の候補作品に関する情報の提供を受けた。
- (2) 歌舞伎の新作脚本募集  
23 年 10 月より 24 年 3 月末まで応募を受け付けた。外部団体等へのポスター掲示、チラシ配布の協力依頼、雑誌への広告掲載やネットメディアの使用など、前回の周知方法をさらに見直し、結果として、過去最多の 213 篇の応募があった。なお、選考ならびに表彰は 24 年度に実施する。
- (3) 文楽における作曲等の上演準備作業
  - ・ 国立劇場文楽演目復曲事業の一環として、明治 25 年以来上演が途絶えている「大塔宮囃子」の「六波羅館の段」と「身替り音頭の段」を三味線の朱(三味線の楽譜)をもとに復曲し、浄瑠璃演奏の録音作業を兼ねてあざくら会員を対象とする復曲試演会を実施した。(3 月 23 日、伝統芸能情報館レクチャー室、参加者 94 名(応募者 273 人、当選者 110 人))
  - ・ 平成 21 年に文楽劇場において復活上演した「日本振袖始」を、国立小劇場の舞台機構に合わせた新たな振付により 24 年 2 月文楽公演で改訂上演した。
  - ・ 文楽劇場において、夏休み文楽特別公演で平成 13 年に初演した「舌切雀」を、改訂演出で再演した。

ては入場率が計画を上回っているものもあり、未達の要因が東日本大震災の影響とばかりは言えないため、未達の要因を分析し、対策を講じる必要がある。

【文楽】

○入場率は年々減少しており、前年度比 2.1%減で計画に対しても未達である。目標入場者数の達成度も 95.9%である。文楽鑑賞教室の入場率がほかの公演に比べて高いなど、公演によっては入場率が計画を上回っているものもあることから、未達の要因が東日本大震災の影響なのか分析し、対策を講じる必要がある。

○青少年のための文楽鑑賞教室をより充実させる等、底辺拡大に努められたい。

【舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか】

○国立劇場ならではの広い視野に立った演者・演目を起用、上演したことは評価できる。

○雅楽、民俗芸能、特別企画で入場率の計画を達成したことは評価できる。

【大衆芸能】

○入場率が平均 96.6%と高い国立名人会はもとより、若手新人公演も盛況なのは将来に希望が持てるものであり

(4) 大衆芸能の新作脚本募集

23年度は「落語」部門の脚本を8月1日より募集開始し、8月31日に締め切った(応募総数186篇)。1月25日に選考会を開催し、優秀作2篇1名・佳作1篇、財団法人清栄会による奨励賞1篇が決定した。

優秀作「河太郎政談」「一足違い」井口守

佳作「菘狂言」栗原昇

清栄会奨励賞「塩梅」佐和みや

(5) 能楽における新作の上演及び復曲再演

・7月特別企画公演 新作能「影媛」(国立能楽堂委嘱作品・初演)

・12月企画公演 復曲能「布留」(昭和59年復曲)

(6) 組踊等沖縄伝統芸能における新作組踊及び新作の沖縄芝居の上演

・6月企画公演 沖縄芝居「九年母の木の下で」

・7月企画公演 歌舞劇「首里城物語」

・1月企画公演 新作組踊「サシバの契り」

2-(1)-① 歌舞伎

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
10月歌舞伎公演 通し狂言 「開幕驚奇復讐譚」	本館 大劇場	10/3(月)~ 27(木)	実績	25回	25日	22,670人	(71.1%)	31,875人
			計画	25回	25日	24,000人	(63.2%)	38,000人
11月歌舞伎公演 「日本振袖始」 「曾根崎心中」		11/3(木・ 祝)~ /6(土)	実績	24回	24日	17,895人	(49.1%)	36,480人
			計画	24回	24日	24,300人	(66.6%)	36,480人
12月歌舞伎公演 「元禄忠臣蔵」		12/3(土)~ /6(月)	実績	24回	24日	24,178人	(66.3%)	36,480人
			計画	24回	24日	25,700人	(70.4%)	36,480人
1月歌舞伎公演 通し狂言「三人吉三巴白浪」 「奴胤廓春風」		1/3(火)~ 27(金)	実績	25回	25日	27,313人	(74.5%)	36,650人
			計画	25回	25日	27,100人	(71.3%)	38,000人
3月歌舞伎公演 「一谷嫩軍記 一流しの枝・ 熊谷陣屋」		3/3(土)~ 27(火)	実績	24回	24日	18,295人	(50.2%)	36,480人
			計画	25回	25日	23,900人	(62.9%)	38,000人
【歌舞伎公演 小計】	5公演(計画:5公演)	実績	122回	122日	110,351人	(62.0%)	177,965人	
		計画	123回	123日	125,000人	(66.9%)	186,960人	

評価できる。

○意欲的なプログラムを組んではいるが、入場率のバラツキが公演によって著しく見受けられる。

また、入場率は前年度比 11.4%の大幅減で、計画に対しても未達となっており、目標入場者数の達成度も 89.6%である。

減少した要因について分析し、対策を講じる必要がある。

【能楽】

○新作能の企画・上演など充実した公演が実施され、入場率はわずかに未達であるが、ここ3年連続 90%台の入場率を維持していることは評価できる。

【組踊等沖縄伝統芸能】

○公演は計画どおりに実施されており、普及公演の入場率が 83.4%であることは評価できる。

○定期公演の入場率が 62.6%と低いことについてはその要因を分析し、対策を講じる必要がある。

○アンケート調査での「概ね満足」との回答が、75.3%と、昨年の 72%からは微増だが、80~90%台の他の分野に比べると依然として低いため、その要因を分析し、対策を講じる必要がある。

【演目の拡充】

6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「義経千本桜 河連法眼館の場」	本館 大劇場	6/4(土)～ 26(日)	実績	46回	23日	45,883人	(65.6%)	69,920人
			計画	46回	23日	55,000人	(78.7%)	69,920人
7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「義経千本桜 渡海屋の場・大物浦の場」	本館 大劇場	7/3(日)～ 24(日)	実績	44回	22日	60,663人	(90.7%)	66,880人
			計画	44回	22日	56,000人	(83.7%)	66,880人
【歌舞伎鑑賞教室 小計】 2公演(計画:2公演)			実績	90回	45日	106,546人	(77.9%)	136,800人
			計画	90回	45日	111,000人	(81.1%)	136,800人
【歌舞伎 合計】 7公演(計画:7公演)			実績	212回	167日	216,897人	(68.9%)	314,765人
			計画	213回	168日	236,000人	(72.9%)	323,760人

※3月歌舞伎公演「一谷嫩軍記」は、政府主催「東日本大震災一周年追悼式」開催のため、3月11日(日)の公演を中止した。

## 2. 営業・広報

- ・ 45周年記念企画「歌舞伎を彩る作者たち」シリーズ告知のため東京メトロ主要13駅に大型ポスター(B1サイズ×4)を掲示。銀座ホットビジョンで各公演の動画広告を行った。また、ホームページ内に45周年記念公演特設サイトを作成し周知に努めた。
- ・ 10月公演は、初日前日にマスコミ各社に舞台稽古を公開。舞台上で出演者がインタビューに応じ、この様子は当日のNHKニュースに取り上げられ、大きな波及効果が見られた。ウォールストリートジャーナル日本版でも取り上げられるほどであった。
- ・ 11月公演は、「曾根崎心中」出演の藤十郎・鴛雀による「お初天神」成功祈願、「日本振袖始」出演の梅玉・魁春による「出雲大社東京分祠」成功祈願を実施し、公演の周知に努めた。
- ・ 12月公演では、舞台となった浜離宮を見下ろすコンラッド東京ホテルで記者会見を開き、8件の公演紹介記事となった。赤穂義士討入り当日の14日には来場者全員に、「元禄忠臣蔵観劇記念 ゆかりの地古地図」を作成、配布した。
- ・ 1月公演は、初春歌舞伎らしい看板撮影の様子を取材することを兼ねて、記者会見を行った。幸四郎・染五郎・金太郎の親子三代が顔を合わせ、和やかな雰囲気で見聞が盛り上がった。12/26～1/8表参道駅に会見時に撮影した特大ポスター(B1×16サイズ)を掲出した。初日1/3に出演者・理事長による鏡開きを行い、1/3～1/7ロビーにて獅子舞、1/13～1/15お茶席を設け初春公演らしい雰囲気を盛り上げた。初日のNHK-BSの生中継では、初春初日でにぎわう様子が全国に届けられた。
- ・ 3月公演に因んで行った熊谷キャンペーンは、市川團十郎丈による、熊谷直実ゆかりの地訪問、記者発表、市長表敬訪問、記念植樹を行い公演宣伝に努め、同時に熊谷市との協力により集客でも成果を上げた。
- ・ 団体の集客については、今後の新規観劇見込み団体を含む顧客情報を営業部で整備共有することによって、営業活動の効率化を図るとともに、人事異動などによる営業担当者の交代に伴う営業力の低下を防ぐことに努めた。企業OB会、大手企業系列の旅行代理店(インハウスエー

○計画どおりに実施されている。特に歌舞伎の新作脚本募集に過去最多の応募があったことは評価できる。

ジェント)、専門学校等を主たるターゲットに設定した営業活動を展開し、ダイレクトメール等をそれぞれの業種にあわせて作成するなど公演の魅力をよりの確に伝えられるように努めた。

- ・ 外国人観光客への情報発信・公演周知活動をさらに強化するため、日本コンシェルジュ協会及び独立行政法人国際観光振興機構(日本政府観光局)の海外プロモーション部とコンベンション誘致部の担当者を対象に下見見学会を行い、提携・協力を依頼した。
- ・ 「俳優祭」(貸劇場:日本俳優協会主催、1/29 大劇場)において、主催者の了承を得て入場者に対して公演チラシを配布し、宣伝に努めた。

### 3. 外部専門家等の意見

- ・ 10月公演について、開場当時から国立劇場ならではの特徴は他の劇場では類をみないその舞台機構、また舞台袖の広さにあり、それまで上演不可能と考えられがちな、ことに馬琴ものをスケール感を損なうことなく上演できたことにある。本作のように新たに台本を作り、錦絵を参考にしながら馬琴物をシリーズのようにして時に上演してゆくのも面白いと思う。龐大な原作に立ち帰って「創作」した脚本は、全体として見た場合、程よくまとまっていた。両宙乗りは、前評判の割には、ドラマの中の眼目としては少々不発の気味がある。国立劇場の開場 45 周年記念のスタートになる作品として、馬琴作品を蘇らせる大胆な意図は結構だったが、「復活」というより「新作」であり、となると演出面でも「監修」はそのままにしながら演出家を起用するなどの冒険があってもよかったのではないか。
- ・ 11月公演について、「日本振袖始」は八岐大蛇退治を中心にわかりやすくまとめられていた。序幕をつけたことにより、素戔鳴尊の役割や、大蛇退治の意味が明確になり、単に筋が通ったという以上の興味が増した。特に、前段の主要な筋を素戔鳴尊の「物語」という形でまとめたのは、台本作成上の手柄と言ってよい。「曾根崎心中」は、翫雀と藤十郎とのバランスが大分よくなり繰り返しの上演の大切さを実感させられた。その藤十郎丈のお初が国立劇場大劇場の舞台に今回初めて登場した訳であるが、非常に鮮度の高い舞台になったように思われる。近松=心中物と思われがちななかで、「日本振袖始」を同時に上演することも本来の作者近松のスケール感を際立たせる番組立てであると思われた。
- ・ 12月公演について、「御浜御殿」と「大石最後の一日」という単独作としてもポピュラーな二場面に、プロローグとして大幅カットした「江戸城の刃傷」を冒頭につけるという立て方は一見平凡なようだが、吉右衛門が綱豊と大石を一人で演じることによって、かえって「元禄忠臣蔵」全体のテーマがくっきり浮かび上る効果があった。梅玉の新井白石に儒者の懐の深さがあり、多門伝八郎、堀内伝右衛門の歌六、富森助右衛門の又五郎も青果劇の難しい台詞を朗々と語り、芝雀は「大石最後の一日」のおみのに情感の豊かさで魅了してくれた。吉右衛門を取り巻く役者たちの緊張感あふれる演技でいずれの作品も青果劇を堪能させる舞台に仕上がっていたのだが、「刃傷」で諸大名たちの居所がいまひとつ決まらないせいか緊迫感に欠いた。
- ・ 初春公演について、人気作の「三人吉三」の通しと、珍しい舞踊作品の「奴胤廓春風」の二本立てであり、まさにこれまでの国立劇場の仕事を象徴するかの番組立てになっている。「三人吉三」は久しぶりの通しで、上演の多い<大川端>以降の三人吉三の命運が見せられたことは意義がある。ただ<大川端>の「月も朧に」以下の黙阿弥独特のリズム、流れのある台詞はまだ流麗には至らない。三人の演者の個性は大切だが、それと共に調和が求められるが、それがまだ不十分だと感じた。「奴胤廓春風」は舞鶴屋の倅小伝三で金太郎の国立劇場初お目見え。大旦那の祖父・幸四郎とのやりとりが楽しい。なかなか多彩な内容を持ち、お正月気分にもふさわ

しく、久々の復活として成功を収めていた。このような復活・補綴はこれからも試みてもらいたいし、本作も上演を繰り返し新たな趣向の工夫を望む。

- ・ 3 月公演について、絶筆とされる「一谷嫩軍記」から「堀川御所」「流しの枝」そして馴染み深い「熊谷陣屋」までの三幕構成の上演は、限られた時間のなかで、この作者の作劇術の巧さ、ドラマ構築のスケールの大きさを観客に伝える意味で大きな成果をあげた。98 年ぶりの「堀川御所」、37 年ぶりの「林住家」が付いたため「通し上演」の趣があり、「熊谷陣屋」に収れんさせるといふ視点をきちんと定め、「一谷嫩軍記」の全体像を示そうとする姿勢は、創立当初を彷彿させるものがある。もうひとつ欲を言えば、「堀川御所」と「流しの枝」の間にある「陣門・組討」が入っていれば「陣屋」への流れがさらに明確になったであろう。作者・並木宗輔の絶筆になった作品であるだけに機会があればきちんとした通しを実現してほしい。
- ・ 6 月歌舞伎鑑賞教室について、「歌舞伎のみかた」は次に登場する「義経千本桜」を主題としての展開がよかった。揚幕からの生徒登場に意外性がある結構、立ち回りにも活気があった。「河連法眼館」は丸本時代物でありながら初心者にもとつきやすく、歌舞伎らしいイメージや特徴に富んでいるので、好適な演目といえる。翫雀の忠信はやや意外な器用だったものの新しい役柄へ懸命に取り組み、真摯さに好感が持てた。
- ・ 7 月歌舞伎鑑賞教室について、「歌舞伎のみかた」は高校生代表を舞台に登場させる形式をとらず、義太夫狂言の構造と演技の在り方を、竹本・下座との関わりを通じて示そうと松也がよくその趣旨と勘所を呑み込んで好感度よく見せた。「渡海屋・大物」は世話のやつしから時代・王朝物への変化、「魚尽くし」や「三悪道」の台詞、復讐譚、立ち回り、背ギバの碇知盛など波乱と盛り沢山の趣向が凝らされ、高校生や初心者が歌舞伎の醍醐味を味わえる屈指の名作の一つだろう。

#### 4. アンケート調査

全 7 公演で実施(7 回)

回答数 3,972 人(配布数 6,105 人、回収率 65.1%)。回答者の 85.6%が概ね満足と答えた(3,399 人)。

#### 【特記事項】

- ・ 国立劇開場 45 周年記念公演(10・11・12・1・3 月公演)
- ・ 「国立劇場開場 45 周年記念特別座談会 映像でたどる国立劇場の歌舞伎 その 1・2・3」を開催した。(11・1・3 月公演)
  - <その 1>～昭和 41 年から昭和 56 年まで～  
11 月 18 日(金)、国立劇場大劇場、参加者 587 名。有料:1,000 円  
出演:坂田藤十郎、中村梅玉、司会:織田紘二(日本芸術文化振興会顧問)
  - <その 2>～昭和 57 年から平成 8 年まで～  
1 月 20 日(金)、国立劇場大劇場、参加者 1,215 名。有料:1,000 円  
出演:松本幸四郎、中村福助、市川染五郎、司会:織田紘二(日本芸術文化振興会顧問)
  - <その 3>～平成 9 年から 23 年まで～  
3 月 9 日(金)、国立劇場大劇場、参加者 1,133 名。有料:1,000 円  
出演:市川團十郎、坂東三津五郎、司会:織田紘二(日本芸術文化振興会顧問)

- ・平成23年度(第66回)文化庁芸術祭主催公演(10月公演)
- ・平成23年度(第66回)文化庁芸術祭協賛公演(11月公演)
- ・10月公演の国立劇場文芸課による脚本が大谷竹次郎賞奨励賞を受賞した。
- ・開場45周年事業特別企画として、あぜくら会員を対象に「舞台稽古へのご招待」を行った。(10月2日、国立大劇場、参加者数140人(応募者1,093人、当選者160人))
- ・11月公演出演の坂田藤十郎は「曾根崎心中」の「お初」役を1,000回以上演じているが、襲名以降「藤十郎」の名で「お初」を演じる回数が11月25日の公演で100回となることを記念し、終演後に花束贈呈のセレモニーを催し、また当日来場のお客様に「藤十郎サイン入りプロマイド絵葉書(2枚組)」を配布して観客サービスと販売促進を図った。
- ・字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示し、鑑賞の助けとした。(6・7月歌舞伎鑑賞教室)
- ・電力消費のピーク時における節電に協力するため、開演時間を通常の午前の部=11時、午後の部=2時30分から午前の部=10時30分、午後の部=3時に変更した。(7月歌舞伎鑑賞教室)
- ・11月歌舞伎公演、3月歌舞伎公演において、東日本大震災により避難生活を余儀なくされている方々を中心に被災者を期間限定で招待した。東京都の協力を得て広報にあたり、来場者は11月歌舞伎268件648人、3月歌舞伎229件533人であった。
- ・政府主催「東日本大震災一周年追悼式」開催のため、3月11日(日)が休演となった。(3月歌舞伎公演)

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

本公演:実績110,351人/目標125,000人(達成度88.3%)

鑑賞教室:実績106,546人/目標111,000人(達成度96.0%)

合計:実績216,897人/目標236,000人(達成度91.9%)

2-(1)-② 文楽

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
5月文楽公演「源平布引滝」襲名披露口上」「傾城恋飛脚」/「二人禿」絵本太功記」「生写朝顔話」	本館小劇場	5/7(土)~23(月)	実績	34回	17日	15,028人	(78.9%)	19,040人
			計画	34回	17日	17,140人	(90.0%)	19,040人
9月文楽公演「寿式三番叟」伽羅先代萩」「近頃河原の達引」/「ひらかな盛衰記」「紅葉狩」		9/3(土)~19(月・祝)	実績	34回	17日	16,587人	(87.1%)	19,040人
			計画	34回	17日	18,130人	(95.2%)	19,040人
12月文楽公演「奥州安達原」		12/1(木)~13(火)	実績	13回	13日	6,615人	(90.9%)	7,280人
			計画	13回	13日	6,410人	(88.0%)	7,280人

2月文楽公演「彦山権現誓助剣」/ 「義経千本桜」 「五十年忌歌念仏」/ 「菅原伝授手習鑑」 「日本振袖始」		2/4(土)~ 20(月)	実績	51回	17日	22,113人	(77.4%)	28,560人
			計画	51回	17日	23,700人	(83.0%)	28,560人
【本館・文楽公演 小計】 4公演(計画:4公演)			実績	132回	64日	60,343人	(81.6%)	73,920人
			計画	132回	64日	65,380人	(88.4%)	73,920人
12月文楽鑑賞教室公演「解説 文楽の魅力」 「曾根崎心中」	本館 小劇場	12/1(木) ~13(火)	実績	24回	13日	13,155人	(99.1%)	13,272人
			計画	24回	13日	12,610人	(95.0%)	13,272人
【文楽(本館)合計】 5公演(計画:5公演)			実績	156回	77日	73,498人	(84.3%)	87,192人
			計画	156回	77日	77,990人	(89.4%)	87,192人
4月文楽公演「源平布引滝」 「襲名披露口上」 「艶容女舞衣」 「碁太平記白石噺」 「女殺油地獄」		4/2(土)~ 24(月)	実績	46回	23日	17,316人	(51.5%)	33,626人
			計画	46回	23日	17,000人	(50.6%)	33,626人
夏休み文楽特別公演「日高川入相花王」 「解説 文楽へのごあんない」 「舌切雀」 「絵本太功記」 「心中宵庚申」	文楽 劇場	7/23(土)~ 8/8(月)	実績	51回	17日	18,217人	(48.9%)	37,281人
			計画	51回	17日	20,000人	(53.6%)	37,281人
錦秋文楽公演「鬼一法眼三略巻」 「恋女房染分手綱」 「伊賀越道中双六」 「紅葉狩」		10/29(土) ~11/20(日)	実績	46回	23日	14,957人	(44.5%)	33,626人
			計画	46回	23日	18,500人	(55.0%)	33,626人
初春文楽公演「七福人宝の入船」 「菅原伝授手習鑑」 「卅三間堂棟由来」 「義経千本桜」 「壺坂観音霊験記」		1/3(火)~ 24(火)	実績	44回	22日	20,985人	(65.2%)	32,164人
			計画	44回	22日	20,000人	(62.2%)	32,164人
【文楽劇場・文楽 小計】 4公演(計画:4公演)			実績	187回	85日	71,475人	(52.3%)	136,697人
			計画	187回	85日	75,500人	(55.2%)	136,697人
6月文楽鑑賞教室「五条橋」 「解説 文楽へようこそ」 「仮名手本忠臣蔵」	文楽 劇場	6/10(金) ~23(木)	実績	28回	14日	19,945人	(97.4%)	20,468人
			計画	28回	14日	18,500人	(90.4%)	20,468人
【文楽(文楽劇場)合計】 5公演(計画:5公演)			実績	215回	99日	91,420人	(58.2%)	157,165人
			計画	215回	99日	94,000人	(59.8%)	157,165人
【文楽 総合計】 10公演(計画:10公演)			実績	371回	176日	164,918人	(67.5%)	244,357人
			計画	371回	176日	171,990人	(70.4%)	244,357人

## 2. 営業・広報

(本館)

- ・ マスコミ各社への記者会見及び取材依頼、テレビ出演、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、また都内の比較的小規模な劇場におけるちらし設置など公演情報の周知範囲拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 5月公演では、源大夫・藤蔵襲名に伴い、襲名チラシ20,000枚、ポスター5枚を作成。襲名記者会見(2月22日)には新聞一般紙8紙、スポーツ1紙、雑誌・ライターほか全16人出席。襲名以外にチラシ2種類80,000枚、ポスター150枚作成、配布。
- ・ 9月公演では45周年記念公演の開幕に伴い、45周年告知ポスター・チラシを作成。また、記念公演告知用カレンダーチラシも作成した。告知ポスターは東京メトロポスターボードや四谷・京橋・市ヶ谷等の掲示板に掲出。記念公演のラインアップ告知のため、9月2日(朝日・毎日・日経)、3日(読売・産経・東京)日刊紙各紙へ広告出稿。また、9月2日にはホームページ内に記念公演特設サイトを開設。45周年告知以外にチラシ2種類85,000枚、ポスター2種類220枚作成、配布。
- ・ 9月2日に東京メトロ永田町駅構内で「メロ文楽」(人形解説と上演演目の一部実演)を実施、及びメロ全駅でポスター掲示した。
- ・ 12月に鶴澤清治、葛西聖司による文楽DVD「通し狂言妹背山婦女庭訓」発売を記念したイベントを行った。
- ・ 2月公演では、出雲大社で鶴澤清治、桐竹勘十郎ほかによる「日本振袖始」の成功祈願を行った。
- ・ 団体の集客については、今後の新規観劇見込み団体を含む顧客管理体制の体系化を進め、営業活動の効率化を図るとともに、営業担当者の人事異動による交代に伴う営業力の低下を防ぐことに努めた。企業OB会、大手企業系列の旅行代理店(インハウスエージェント)、専門学校等を主たるターゲットに設定した営業活動を展開し、ダイレクトメール等をそれぞれの業種にあわせて作成するなど公演の魅力をよりの確に伝えられるように努めた。
- ・ 昨年の歌舞伎に引き続き文楽のコンパクトガイド(日本語・英語)を作成し、営業ツールとして使用し普及に努めた。

(文楽劇場)

- ・ 営業では、それぞれの公演演目のゆかりの地に関係の深い寺社や観光協会、地元企業とタイアップし、集客活動を行った。
- ・ 地元で行われる祭礼行事などに参加し、広く一般への普及活動を行った。  
また、本年も大阪市との協力による「親子ペア」事業を実施し、参加対象者に対して文楽の楽しさをアピールする広報活動を展開することにより集客の増大を図った。
- ・ 大阪市及び文楽協会との連携による「青少年のための文楽鑑賞教室」事業は大阪市立の小、中、高校が多数参加し、人形浄瑠璃文楽及び伝統芸能に対する親近感及び知識の向上を図ることができた。

## 3. 外部専門家等の意見

(本館)

- ・ 5月公演について、源大夫、藤蔵の襲名披露がおこなわれたが、源大夫の体調には不安があり、休演する恐れについては充分予想できたはずだった。結果として、源大夫は襲名披露狂言

「実盛物語」を途中降板した。これでは何のための襲名披露かわからない。

- ・ 9月公演について、国立劇場開場45周年を祝う「寿式三番叟」で幕を開けた後、『伽羅先代萩』と『近頃河原の達引』という2つの作品から名場面をとりあげて上演、夜の部では対照的に『ひらかな盛衰記』を「大津宿屋の段」から「逆櫓の段」までを上演して筋の展開のおもしろさを堪能させた後に、景事の『紅葉狩』で華やかに終わるというプログラムで、昼と夜とで異なる角度から文楽の楽しさを味わえる番組であった。『寿式三番叟』をおこなったのは、平成23年3月の大震災を受けての古典芸能の応答のひとつとしても評価したい。
- ・ 12月公演について、『奥州安達原』は、東京公演では平成20年9月に三段目から道行をはさんで四段目までを上演している。大序から四段目まで通しで上演したのは平成2年9月だから、20年以上前になる。この二段目は単独では、まず取り上げられることはない。つまり20年以上、二段目は上演機会がなかったことになる。通し以外で上演しようとするなら、今回のように三段目と抱き合わせなければ無理だろう。伝承を途絶えさせないためにも、二段目を12月の若手公演で体験させておくことは無意味ではない。その意味では評価できる。ただし、『奥州安達原』は、本来であれば、通し狂言で取り上げてほしい作品の一つである。通し狂言が毎年1回は上演できる状態に早く復してもらいたいと切に望む。
- ・ 2月公演について、東京の2月公演は3部構成とするのが通例となっている。上演時間の制限もあり、演目が見取りに傾くのは致し方がない。とはいえ、第2部に千本桜の鮎屋、第3部に菅原の寺子屋という有名狂言を並べている。これは、安易な(評者によっては無気力な)番組建てとの批判を受けかねないのではあるまいか。

(文楽劇場)

- ・ 4月公演について、竹本源大夫鶴澤藤蔵襲名披露公演であったはずだが、源大夫が襲名披露口上のみとなったのは誠に残念で、文楽にとっては口惜しい結果になった。それでも、襲名の効果か、昼夜入れ替わり後もふだんよりも若干夜の部の入りがよかったように思えた。今後も襲名がひとつの観客動員のきっかけになることを実感した。文楽の広報として工夫をしていきたいところだ。
- ・ 6月鑑賞教室について、解説編を担当した技芸員の工夫にみるべきものがあつた。お軽の出を腰元風と姫風で語りと三味線で弾き比べて見せた趣向、また、男女の語り分けというのも演出の仕方次第で児童・生徒の関心を集められる可能性があると感じた。児童・生徒の関心を集めるためには、そこに「発見」と「驚き」がなければならない。専門的なように見えても、発見の喜びがあれば、児童も生徒もついてくるものである。
- ・ 夏休み文楽公演について、例年通り親子劇場、名作劇場、サマーレイトショーという3部構成で、ふさわしい演目が揃った。特筆すべきは、第1部の親子劇場。まず「日高川入相花王」渡し場の段という視覚的な楽しみも多い作品で始まり、「文楽へのごあんない」をはさんで、昔話を題材にした新作文楽「舌切雀」を持ってきた。変化に富んだ流れがいい。9年ぶりの「舌切雀」は、雀の宙吊りが増えるなどスケールアップ。その雀の人形の可愛らしさも手伝い、楽しく面白い舞台に仕上がった。幕切れで、音楽に合わせて客席から手拍子が起こったのは、観客が物語の世界に入り込み、楽しんでいた証拠だろう。
- ・ 錦秋文楽公演について、見応えに富む名作が昼夜に配された、充実感漂う演目立てであった。中でも第1部「鬼一法眼三略巻」は国立劇場開場四十五周年の記念上演。今回、1960年代に復活されたという場面を含め、文楽の舞台として全体を通して見ると、牛若丸、弁慶をはじめ、

鬼一、鬼次郎、鬼三太といった人物が、そもそもどんな志や因縁を抱えた人物なのかが理解でき、壮大な歴史ドラマが舞台の背景に浮かび上がってきた。

- ・ 初春文楽公演について、第2部は「文楽の逆襲—ケレンたっぷり見せまっせ」そんなタイトルをつけたくなるような楽しい舞台だった。「義経千本桜」の狐忠信の勘十郎の芸が客席をおおいに沸かせた。見台抜け、鼓抜け、灯笼返し、障子抜け、早替りに宙乗り。最後の宙乗りは舞台のセリ下げまでついている。晴れやかに勘十郎の狐忠信が吉野の中空を飛翔する姿は、猿之助もびっくり！今までケレンの多用は地方公演では時々見せていたのだが、文楽本公演では控えてきた感がある。南座での文楽公演で、若き日の勘十郎が狐忠信をケレン味たっぷりに遣っていたのを思い出す。その時も拍手喝采であった。今回の公演では歌舞伎の狐忠信の向こうを張って人形浄瑠璃の大胆な演出を文楽劇場で試みたか。幕間での観客の反応は上々だった。

#### 4. アンケート調査

9月公演(本館小劇場)で実施。

回答数 308 人(配布数 473 人、回収率 65.1%)。回答者の 80.2%が概ね満足と答えた(247 人)。

6 月文楽鑑賞教室(文楽劇場)、夏休み特別公演(文楽劇場)、初春文楽公演(文楽劇場)で実施(4 回)。

回答数 1,277 人(配布数 1,916 人、回収率 66.6%)。回答者の 89.7%が概ね満足と答えた(1,146 人)。

#### 【特記事項】

- ・ 国立劇場開場 45 周年記念公演(本館、文楽劇場で実施の、9 月から 3 月の全文楽公演)
- ・ 各公演とも字幕表示装置により、演奏に合わせて義太夫の詞章を表示し鑑賞の助けとした。
- ・ 平成 23 年度(第 66 回)文化庁芸術祭主催(文楽劇場錦秋文楽)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・ 大阪文化祭参加(6 月文楽鑑賞教室)
- ・ 文楽劇場 4 月文楽公演および本館 5 月文楽公演を竹本源大夫鶴澤藤蔵襲名披露公演とした。
- ・ 本館 9 月文楽公演において、東日本大震災により避難生活を余儀なくされている方々を中心に被災者を期間限定で招待した。東京都の協力を得て広報にあたり、来場者は 9 月文楽 49 件 111 人であった。

#### 《数値目標の達成状況》

##### 【目標入場者数の達成状況】

本公演:実績 131,818 人/目標 140,880 人(達成度 93.6%)

鑑賞教室:実績 33,100 人/目標 31,110 人(達成度 106.4%)

合計:実績 164,918 人/目標 171,990 人(達成度 95.9%)

#### 2-(1)-③ 短期公演(舞踊、邦楽、雅楽、声明、民俗芸能、琉球芸能、特別企画)

##### 1. 公演実績

公演名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数

【舞踊】	5 公演 本館大小劇場・文楽劇場	実績	10 回	8 日	4,726 人	(68.8%)	6,868 人
		計画	10 回	7 日	5,010 人	(72.9%)	6,868 人
【邦楽】	6 公演 本館小劇場・文楽劇場	実績	11 回	7 日	5,046 人	(75.8%)	6,653 人
		計画	10 回	7 日	5,010 人	(82.6%)	6,063 人
【雅楽】	1 公演 本館大劇場	実績	1 回	1 日	1,555 人	(96.6%)	1,610 人
		計画	1 回	1 日	1,500 人	(93.2%)	1,610 人
【声明】	1 公演 本館小劇場	実績	2 回	1 日	932 人	(79.0%)	1,180 人
		計画	2 回	1 日	1,100 人	(93.2%)	1,180 人
【民俗芸能】	2 公演 本館小劇場	実績	4 回	3 日	2,071 人	(90.6%)	2,286 人
		計画	4 回	2 日	1,540 人	(65.3%)	2,360 人
【琉球芸能】	1 公演 本館小劇場	実績	2 回	1 日	767 人	(65.0%)	1,180 人
		計画	2 回	2 日	920 人	(78.0%)	1,180 人
【特別企画】	6 公演 本館大小劇場・文楽劇場	実績	6 回	6 日	4,668 人	(81.5%)	5,728 人
		計画	6 回	6 日	4,380 人	(76.2%)	5,748 人
【合計】	22 公演	実績	36 回	27 日	19,765 人	(77.5%)	25,505 人
		計画	35 回	26 日	19,460 人	(77.8%)	25,009 人

## 2. 営業・広報

マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、文楽友の会会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。

## 3. 外部専門家等の意見

(本館)

- ・ 舞踊公演について、「舞の会」が今回大きな変化をみせた。2日間3公演(平成4年以来のこと。現在の質の高さを保つのに3公演はいささか不安だったが)という番組立に加え、歌舞伎界から地唄舞榎京都流の家元となった榎京都扇性(片岡愛之助)の出演、又、次代を支える中堅・若手の演者も増え、新たに参加した流儀もあり(東京の地唄舞神崎流)、将来的展望としては明るい材料となったのは喜ばしい。又、舞台演出では上下にお茶屋か料亭風の外壁をつけたことは、客席との一体化として、この演出効果は大きく、評価したい。実際の舞台は、安定し舞の純度が高い年長の舞い手と初出演組ではかなりの濃度差があったが、人材育成の場としての英断であり、長い目で育成してほしい。今回の「舞の会」では国立劇場としての役割はしっかり果たされたと思われる。
- ・ 邦楽公演について、今年度の新企画12月の「稀曲の会」はあまり演奏頻度の多くない曲を紹介し、その曲の魅力を掘り起こし、次世代に残していく上での大きな意義をもっており、国立劇場であるからこそ率先して企画できる催しであり、「芸術文化振興」という理念に即した公演として評価できる。稀曲の音楽特徴や詩情やハコビなど現在の多彩な邦楽に与える音楽的刺激がかなりあるものと考え、これからもこの企画を期待しています。
- ・ 雅楽・声明公演について、6月声明公演、2月雅楽公演と内容は充実している。しかし公演プログラムにおいては、雅楽では舞振りの解説、声明では法要が実際に行われている様子、それぞ

れに出演者プロフィールなどの情報を掲載して欲しい。

- ・ 民俗芸能公演について、伝統芸能と民俗芸能の境界が薄れ、民俗芸能が伝統芸能に吸収されていく公演が増加しているように思った。民俗芸能公演を行う意義を維持するためには、伝統芸能との差異化をどう図るか、民俗の文脈を舞台でどのように再現できるかを工夫すべき。

(文楽劇場)

- ・ 舞踊公演について、特に上方四流については家元かトップの舞踊家が登場し、文字通り競い合うように舞台をつとめたことが、いい意味で緊張感のある公演を作り上げたといえる。
- ・ 特別企画公演について、声明という滅多に聞けない宗教的な伝統音楽に間近に触れ体感できた非常に貴重な公演であった。代表的な天台宗と真言宗の声明を、文楽劇場にその法要の空間を現出させ、見せながら聴かせる舞台演出が巧妙で、また前半と後半にこの二つを組んだ構成も誠に心憎く、声明それぞれの違いと多様性をくつきり浮かび上がらせて、まったく異なる印象と感動を覚えた。

4. アンケート調査

舞踊公演 2 回、邦楽公演 2 回、声明公演 1 回、民俗芸能公演 1 回、琉球芸能公演 1 回、特別企画公演 2 回(計 9 回実施)

回答者数 2,983 人(配布数 5,183 人、回収率 57.6%)。回答者の 82.3%が概ね満足と答えた(2,456 人)。

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場 45 周年記念公演(本館、文楽劇場で実施の、9 月から 3 月の全公演)
- ・ 平成 23 年度(第 66 回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場 10 月舞踊)
- ・ 平成 23 年度(第 66 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月邦楽 2 公演、11 月舞踊)
- ・ 本館の 9 月特別企画公演「十牛図と秋庭歌一具」及び「日本の太鼓」の 2 公演は、東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、東京発・伝統 WA 感動実行委員会と共催で実施した。
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場 5 月舞踊・邦楽、7 月邦楽、9 月特別企画、10 月舞踊の各公演)
- ・ 大阪文化祭参加(文楽劇場 5 月舞踊・邦楽公演)
- ・ 上演内容に応じて、字幕表示装置により、演奏にあわせて詞章等を表示し鑑賞の助けとした。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 19,764 人／目標 19,460 人(達成度 101.6%)

《短期公演詳細表》

**舞 踊**

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数

5月舞踊公演 「踊り、絵尽くし」	本館 大劇場	5/28(土)	実績	1回	1日	782人	(51.4%)	1,520人
			計画	1回	1日	1,040人	(68.4%)	1,520人
8月舞踊公演 「花形・名作舞踊鑑賞会 ～涼を求めて～」	本館 小劇場	8/6(土)～ 7(日)	実績	2回	2日	757人	(72.5%)	1,044人
			計画	2回	1日	800人	(76.6%)	1,044人
11月舞踊公演 「舞の会－京阪の座敷舞 －」	本館 小劇場	11/25(金)～ 26(土)	実績	3回	2日	1,515人	(85.6%)	1,770人
			計画	3回	2日	1,500人	(84.7%)	1,770人
3月舞踊公演 「素踊りの会」	本館 小劇場	3/17(土)～ 18(日)	実績	2回	2日	887人	(75.2%)	1,180人
			計画	2回	2日	910人	(77.1%)	1,180人
【本館舞踊 小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	8回	7日	3,941人	(71.5%)	5,514人
			計画	8回	6日	4,250人	(77.1%)	5,514人
10月舞踊公演 「東西名流舞踊観賞会」	文楽劇場	10/15(土)	実績	2回	1日	785人	(58.0%)	1,354人
			計画	2回	1日	760人	(56.1%)	1,354人
【舞踊 合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	10回	8日	4,726人	(68.8%)	6,868人
			計画	10回	7日	5,010人	(72.9%)	6,868人

※8月舞踊公演は、計画では1日2回公演の予定であったが、電力消費のピーク時における節電に協力するために17時開演の2日間2回に変更した。

## 2. 営業・広報

舞踊公演はマスコミ各社への取材依頼を行い、各公演とも数社によるインタビュー記事掲載に尽力している。ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。8月は新聞2紙に取材記事が掲載され、公演評も1紙掲載された。11月は公演紹介やインタビューなど公演前の掲載等は、新聞記事1件、公演評も1紙掲載された。3月は藤間藤太郎、橘芳慧、花柳寿美による取材記事が掲載された。

## 3. 外部専門家等の意見

(本館)

- ・ 舞踊公演ではテーマをしぼることは作品の知名度、バランス、演者の力量等々簡単に思いつくようではなかなか難しいものがある。5月舞踊公演の“踊り、絵尽くし”は舞踊絵巻とか絵になるといった表現もあり、踊りと絵の密接な関係からも一見地味なテーマのようだが着眼点もよく面白い公演となった。絵を題材にした古典から現代の舞踊を並べたのは目先も雰囲気も変わり楽しめたとし、プログラムに元となった絵が載せられている事、舞台上では脇のスクリーンに絵が映し出された事など観客に親切で興味をもたせたといえる。
- ・ 8月舞踊公演で特記すべきは東日本大震災の影響により電力需要が制限されたため、「～涼を求めて～」とサブタイトルが付されている通り、開演時間や会場内が工夫されたことで

す。会場はロビーに屋台を出すなどの工夫が、舞台との距離感を縮め、芝居小屋風の気軽さを提供していましたが、国立劇場主催の日本舞踊公演にこのような工夫がよいかどうかは再考の余地を残していると言えなくもありません。また今回は司会を登場させ、演者や演目紹介がなされましたが、演者紹介ではやや幕内的な話題が目立ち、司会者の不慣れも際立ち、司会者の選択も重要です。

若手・中堅の熱演で客席も湧き、スター的な存在の舞踊家も育まれつつあり、活気にあふれていたものでした。今回は当該公演に初登場の舞踊家が4名で半数近くを占める反面、これまで人気のあった出演者の登場が少なく、総体的にやや華やかさや熱気に欠けた感がありました。

- ・「舞の会」が今回大きな変化をみせた。2日間3公演(平成4年以来とのこと。現在の質の高さを保つのに3公演はいささか不安だったが)という番組立に加え、歌舞伎界から地唄舞榎茂都流の家元となった榎茂都扇性(片岡愛之助)の出演、又、次代を支える中堅・若手の演者も増え、新たに参加した流儀もあり(東京の地唄舞神崎流)、将来的展望としては明るい材料となったのは喜ばしい。又、舞台演出では上下にお茶屋か料亭風の外壁をつけたことは、客席との一体化として、この演出効果は大きく、評価したい。実際の舞台は、安定し舞の純度が高い年長の舞い手と初出演組ではかなりの濃度差があったが、人材育成の場としての英断であり、長い目で育成してほしい。今回の「舞の会」では国立劇場としての役割はしっかり果たされたとと思われる。

- ・3月「素踊りの会」:昨年3月11日の東日本大震災から一年を経た。光陰矢の如し。例年になく、時の流れの超光速を実感したが、舞踊界、特に被災した東北の舞踊家に思いを馳せる感慨はひとしお。本会もその例外ではない。出演が叶わなかった5名が舞台に立ち、開場45周年記念であり、演目の全てに追悼の念と未来への架け橋となる思いが込められていたと思う。

初日17日はあいにく、雨。しかし和服のご婦人客たちが思いの外、多く、観客動員は上々のようだった。この点が一つの驚き。素踊りの魅力の吸引力か舞踊家の力か？

- ・本年度は特に、国立劇場としての企画の方針、人選の基準、演目選定の基準などがやや揺れ動いている印象を受けました。国立劇場主催公演はもう少し権威をもって臨んでいただいてもよいのではないのでしょうか。日本舞踊を将来に確実に引き継いでいただけることを望みたいと思います。

(文楽劇場)

- ・10月公演について、特に上方舞四流については家元かトップの舞踊家が登場し、文字通り競い合うように舞台をつとめたことが、いい意味で緊張感のある公演を作り上げたといえる。

#### 4. アンケート調査

5月公演(本館大劇場)・8月公演(本館小劇場)で実施(2回)。

回答数454人(配布数940人、回収率48.3%)。回答者の81.1%が概ね満足と答えた(368人)。

#### 【特記事項】

- ・平成23年度(第66回)文化庁芸術祭主催(文楽劇場10月舞踊)
- ・平成23年度(第66回)文化庁芸術祭協賛公演(11月公演)
- ・国立劇場開場45周年記念公演(本館、文楽劇場で実施の、9月から3月の全公演)
- ・本館におけるすべての公演で字幕表示装置により、演奏に合わせて歌詞を表示して鑑賞の助

けとした。また、5月公演では、この装置を活用して英一蝶画「朝妻舟図」(板橋区立美術館所蔵)、鈴木春信画「おせんと団扇売り」(東京国立博物館所蔵)、竹久夢二画「秋のいこい」(夢二郷土美術館所蔵)の3点の絵を上演前に表示して鑑賞の参考とした。

- ・ 8月公演では、納涼気分を醸し出すため、ロビー売店の出店を設けてのラムネやカットフルーツなどの販売、劇場前庭等の打ち水、浴衣姿のスタッフによるチケット受付などを行った。これらと公演との一体感を図るため、元宝塚歌劇団の城咲あいと出演舞踊家によるご案内を幕間に入れた。また、和服で来場された観客に特製の団扇と手拭いをプレゼントする企画で、宣伝効果を高めるとともに、公演当日のロビーの雰囲気盛り上げた。
- ・ 11月公演では、プロセニアムの壁面にパネルを用いて座敷風の装飾を施し劇場空間をできるだけ意識させない工夫をした。
- ・ 3月公演では、前回(平成23年3月12日)で東日本大震災による公演中止で出演できなかった5名の舞踊家を再度起用した。一方、18日(日)に常磐津「竹生島」で出演予定の花柳寿南海が体調不良につき休演した。これに伴い、出演者及び演目の変更を行い、花柳寿美(天女)・花柳翫一(伯了)にて常磐津「松廼羽衣」を上演した。
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場10月舞踊)

## 邦 楽

### 1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
7月邦楽公演「邦楽へのいざない はじめての邦楽」	本館 小劇場	7/30(土)	実績	3回	1日	999人	(56.4%)	1,770人
			計画	3回	1日	1,500人	(84.7%)	1,770人
10月邦楽公演「上方の芸・江戸の芸」		10/1(土)	実績	2回	1日	812人	(68.8%)	1,180人
			計画	2回	1日	870人	(73.7%)	1,180人
10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」		10/22(土)	実績	1回	1日	581人	(98.5%)	590人
			計画	1回	1日	560人	(94.9%)	590人
12月邦楽公演「稀曲の会 —隠れた名曲の魅力—		12/23(金)	実績	1回	1日	506人	(85.8%)	590人
			計画	1回	1日	430人	(72.9%)	590人
1月邦楽公演「邦楽鑑賞会—長唄の会・三曲の会—		1/14(土)~ 15(日)	実績	3回	2日	1,436人	(81.1%)	1,770人
			計画	2回	2日	1,000人	(84.7%)	1,180人
【本館邦楽 小 計】	5公演 (計画:5公演)	実績	10回	6日	4,334人	(73.5%)	5,900人	
		計画	9回	6日	4,360人	(82.1%)	5,310人	

7月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	文楽 劇場	7/9(土)	実績	1回	1日	712人	(94.6%)	753人
			計画	1回	1日	650人	(86.3%)	753人
【邦楽合計】 6公演 (計画:6公演)			実績	11回	7日	5,046人	(75.8%)	6,653人
			計画	10回	7日	5,010人	(82.6%)	6,063人

2. 営業・広報

マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。7月は新聞1紙に取材記事が掲載された。12月は公演紹介記事、公演評が各1件だった。1月は公演紹介記事が1紙掲載された。

3. 外部専門家等の意見

(本館)

- 7月公演の「親子で楽しむ日本の音」では、ポップス風にアレンジしたものではなく、伝統の世界で大人たちの世代が大切にしている物を、妥協なしに真剣に子どもたちに聴かせるということができたらいいと思う。また、「語り、唄う声の世界」と「響きいろいろ、邦楽の魅力」では、歌と楽器の魅力が取りあげられた。どちらも尾上松也文のそつなく親しみやすい案内と演奏家自身による説明があり、わかりやすく楽しい内容であった。
- 10月公演「上方の芸・江戸の芸」では、演奏者、演奏曲についてそれぞれ第一線で活躍している演奏家をそろえ、充実した演奏で、聴きごたえがあった。地歌の斉藤春子師は初めて聴いたが、とてもよかったと思う。また、「安宅勸進帳」も1時間を超す大曲だったが、生き生きとしてよい演奏だった。
- 10月公演「文楽素浄瑠璃の会」は、舞台上演は80年ぶりという《播州皿屋敷》と文楽屈指の名作・名場面《伊賀越道中双六》沼津の段という組み合わせが面白く、良かった。
- 12月公演「稀曲の会」はあまり演奏頻度の多くない曲を紹介し、その曲の魅力を掘り起こし、次世代に残していく上での大きな意義をもっており、国立劇場であるからこそ率先して企画できる催しであり、「芸術文化振興」という理念に即した公演として評価できる。稀曲の音楽特徴や詩情やハコビなど現在の多彩な邦楽に与える音楽的刺激がかなりあるものと考え、これからもこの企画を期待しています。
- 1月公演「長唄の会」は、1時、4時の回ともに、変化にとんだプログラムが組まれていて楽しく鑑賞できた。演奏者もそれぞれに熱演で、十分楽しめた。観客動員もよく、大変結構だと思う。同「三曲の会」も、三味線組歌、山田流箏曲の古曲、華やかな合奏で知られる芝居歌物、京流手事物、山田流箏曲の大曲という多彩なプログラム編成が面白かった。

(文楽劇場)

- 文楽劇場7月公演「文楽素浄瑠璃の会」について、義太夫節の魅力満開であった。3作品とも素晴らしいと思う。制作者の意図する素浄瑠璃という芸を満喫できたのではと思う。

4. アンケート調査

7月公演、10月公演(1日)で実施(2回)。  
 回答数 505人(配布数 763人、回収率 66.2%)。回答者の87.9%が概ね満足と答えた(444人)。

【特記事項】

- ・平成23年度(第66回)文化庁芸術祭協賛公演(10月邦楽)
- ・国立劇場開場45周年記念公演(10月邦楽、12月邦楽、1月邦楽)
- ・字幕表示装置により、演奏に合わせて歌詞を表示して鑑賞の助けとした。(本館7月公演、文楽劇場7月公演を除く)
- ・本館7月邦楽公演は、電力消費のピーク時における節電に協力するために、2回目の開演時間を13時に、3回目の開演時間を16時とした。
- ・本館10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」は、「伊賀越道中双六」沼津の段のツレ鶴沢清志郎が休演し、豊澤龍爾が代演した。
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場7月公演「文楽素浄瑠璃の会」)

**雅 楽**

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
2月雅楽公演「舞楽」	本館 大劇場	2/25(土)	実績	1回	1日	1,555人	(96.6%)	1,610人
			計画	1回	1日	1,500人	(93.2%)	1,610人

2. 営業・広報

マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。

3. 外部専門家等の意見

- ・宮内庁式部職楽部による2年がかりの大曲の上演は、国立劇場でなければ実現しなかった企画だった。
- ・右舞のプログラム構成が「納曽利」「仁和楽」であり、1公演で平舞と走舞、二人舞と四人舞と六人舞、右と左、外来と和製、という舞楽の様々な形を楽しめるように工夫されていた。
- ・公演に先だって前回の公演の映像を上映したことは、大変行き届いた配慮であった。
- ・公演プログラムへ舞振りの意味やプロフィール等を記載して欲しい。

4. アンケート調査

実施せず。

【特記事項】

- ・国立劇場開場45周年記念公演
- ・本公演に先立ち、前回の公演記録映像による「国立劇場開場45周年記念映像鑑賞会 映像で見る大曲蘇合香一具〈前篇〉」(有料:500円)を実施。(入場者数509人、入場率32.5%)

**声 明**

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
6月声明公演「奈良 西大寺の声明—光明真言土砂加持大法会—」	本館 小劇場	6/11(土)	実績	2回	1日	932人	(79.0%)	1,180人
			計画	2回	1日	1,100人	(93.2%)	1,180人

2. 営業・広報

マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 世間的には「動」の印象の強い東大寺(平成 21 年上演)に対して「静」なる西大寺を、その長年の法灯とともに伝承してきた声明を東都に紹介されたこと、誠に興味深い企画であった。
- ・ 両部ともに「綱維問訊」と「光明真言行道」を加え、どちらか一方の部のみを観ても光明真言会の特徴がわかるようにアレンジされていた。
- ・ 真言律宗のような特に声明に力を入れていない宗派の場合、その面での技量不足は致し方がないが、むしろ声明のありのままの姿を伝えることができたのではないだろうか。

4. アンケート調査

回答数 378 人(配布数 490 人、回収率 77.1%)。回答者の 73.5%が概ね満足と答えた(278 人)。

【特記事項】

- ・ 字幕表示装置により、舞台の進行に合わせて解説・経文を表示した。

**民俗芸能、琉球芸能**

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
6月民俗芸能公演 民俗芸能 公演「宮崎 銀鏡神楽」	本館 小劇場	6/25(土)	実績	2回	1日	1,023人	(86.7%)	1,180人
			計画	2回	1日	840人	(71.2%)	1,180人
1月民俗芸能公演「淡路人 形芝居」	本館 小劇場	1/27(金)~ 28(土)	実績	2回	2日	1,048人	(94.8%)	1,106人
			計画	2回	1日	700人	(59.3%)	1,180人
【民俗芸能 小 計】	2 公演	(計画:2 公演)	実績	4回	3日	2,071人	(90.6%)	2,286人
			計画	4回	2日	1,540人	(65.3%)	2,360人
3月琉球芸能公演「組踊と 琉球舞踊」	本館 小劇場	3/10(土)	実績	2回	1日	767人	(65.0%)	1,180人
			計画	2回	2日	920人	(78.0%)	1,180人

【民俗芸能・琉球芸能 合計】 3 公演 (計画:3 公演)	実績	6 回	4 日	2,838 人	(81.9%)	3,466 人
	計画	6 回	4 日	2,460 人	(69.5%)	3,540 人

## 2. 営業・広報

マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。民俗芸能学会などに協力を依頼し、会員への情報周知を行った。3月には、朝日新聞の読者招待を行い周知に努めた。

## 3. 外部専門家等の意見

- ・ 6月民俗芸能公演: 民俗学者には広く知られていた神楽を本公演によって一般の人々にその魅力を伝える貴重な機会となった。全三十三番の内、二十二番を上演し、内容としても見ごたえがあった。舞台装置も山並みの見せ方で夜通し行われる神楽の進行を表現する意図で演出されるなど、舞台での神楽公演としては充実感があったといえよう。
- ・ 1月民俗芸能公演: 文楽とは異なる大きな人形を遣い、独自の演出や技芸を行う淡路人形芝居の魅力の一端を伝える良い公演であった。またややもすれば停滞しがちな芸能伝承に、演目の復活という活力が生まれ始めた機会に国立劇場で上演したことは、まさに時宜を得た選択であったといえよう。  
儀礼の「戎舞」を入れたことは、民俗との接合を明確にして良い選択であった。

### ・ 3月琉球芸能公演:

(組踊)時代を超えて普遍的なテーマである「家族愛」を核とし、「伝統的な組踊りの様式を重んじた創作」であるのはよく理解でき良い公演であったと思うが、演技者と同世代の観客に沖縄芸能へ目を向けさせるという「創作の動機」に対して「家族愛」は、あまりに単純でつきなみなテーマであるように感じた。現代の若者たちの心を捉えてはなさないテーマを選択できるか否かが、今後の新作最大の課題であると思う。

(舞踊)毎年恒例の企画だが飽きさせない魅力がある。琉球舞踊は創作舞踊に適しているという感じさえ受けた。琉球文化圏では、創作という行為自体が本土とは違う意味を帯びているようだ。今回は若手の登用が主体のようだが、確実に次の世代に受け継がれ、公開オーディションによる選抜という方式が根付いて、伝統芸能の継承が新しい形をとりつつあるように思う。

## 4. アンケート調査

6月民俗芸能公演で実施(1回)。

回答数 271 人(配布数 351 人、回収率 77.2%)。回答者の 90.4%が概ね満足と答えた(245 人)。

3月琉球芸能公演で実施(1回)。

回答数 272 人(配布数 426 人、回収率 63.8%)。回答者の 86.8%が概ね満足と答えた(236 人)。

## 【特記事項】

- ・ 国立劇場開場 45 周年記念公演(1 月民俗芸能、3 月琉球芸能)
- ・ 字幕表示装置により、詞章等を表示し鑑賞の助けとした。  
(6 月)演目名、解説、歌を表示  
(1 月)演目名、義太夫節の詞章を表示  
(3 月)舞台の進行に合わせて詞章の訳を表示

- (6月民俗芸能公演)
- ・ロビーに西都市の観光案内コーナー、2階休憩所に西都市の物産展を設けた。
- (3月琉球芸能公演)
- ・2社企業より特別協賛を得た。(沖縄県酒造協同組合、オリオンビール(株))
  - ・国立劇場おきなわとの連携により紅型衣裳を着た職員等がロビーで公演チラシ等を配布して沖縄の芸能についてアピールした。また、沖縄の物産販売コーナーを設けた。
  - ・公演当日、2時の部と6時の部の間の時間を利用して、“昭和40・50年代の公演記録映像による「琉球舞踊」名舞台映像鑑賞会”を開催した。レクチャー室、参加者110人。
  - ・政府主催「東日本大震災一周年追悼式」開催(3月11日)のため、1日2回(昼夜)公演に変更になった。

**特別企画**

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月舞踊・邦楽公演「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」	本館 小劇場	4/23(土)	実績	1回	1日	465人	(78.8%)	590人
			計画	1回	1日	430人	(72.9%)	590人
9月特別企画公演「十牛図と秋庭歌一具 一新たなる伝統の創造」	本館 大劇場	9/10(土)	実績	1回	1日	1,338人	(88.7%)	1,508人
			計画	1回	1日	1,340人	(87.7%)	1,528人
9月特別企画公演「日本の太鼓受けつぎ、伝えるひびき」	本館 大劇場	9/23(金)	実績	1回	1日	1,236人	(76.8%)	1,610人
			計画	1回	1日	1,180人	(73.3%)	1,610人
11月特別企画公演「津軽三味線を聴くー時代を越えた音色ー」	本館 小劇場	11/12(土)	実績	1回	1日	559人	(94.7%)	590人
			計画	1回	1日	430人	(72.9%)	590人
【本館特別企画 小計】	4公演	(計画:3公演)	実績	4回	4日	3,598人	(83.7%)	4,298人
			計画	4回	4日	3,380人	(78.3%)	4,318人
5月舞踊・邦楽公演「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	文楽 劇場	5/14(土)	実績	1回	1日	347人	(51.3%)	677人
			計画	1回	1日	420人	(62.0%)	677人
9月特別企画公演「聲明ー満ちあふれる“声”を聴く」	文楽 劇場	9/10(土)	実績	1回	1日	723人	(96.0%)	753人
			計画	1回	1日	580人	(77.0%)	753人
【文楽劇場特別企画 小計】	2公演	(計画:2公演)	実績	2回	2日	1,070人	(74.8%)	1,430人
			計画	2回	2日	1,000人	(69.9%)	1,430人

【特別企画公演 合計】	6 公演 (計画:5 公演)	実績	6 回	6 日	4,668 人	(81.5%)	5,728 人
		計画	6 回	6 日	4,380 人	(76.2%)	5,748 人

## 2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 9 月公演「十牛図と秋庭歌」と「日本の太鼓」は、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団が実施する「東京文化発信プロジェクト」における伝統芸能を広く公開する事業「東京発・伝統WA 感動」の一環として、同プロジェクトの主催 3 団体と共催したもので、チラシ等の配布や新聞広告への掲載など、宣伝、広報面で協力を得た。

## 3. 外部専門家等の意見

(本館)

- ・ 4 月舞踊・邦楽公演:(邦楽)技術的に安定していて不安感なく聴くことができ、また出演者の若々しい意気込みが感じられ、好感が持てた。共演者も顔触れがそろい、質の高い演奏になったと思う。  
(舞踊)昨年度は技術力を課題にした演目であったのに対し、本年度の 2 人は表現力を課題にした演目と言えるかと思います。しかしながら、「綾の鼓」は踊り手自身のキャリアを鑑みると演目選定が果たして適切であったかどうか、もう少し着実に成果が挙げられる演目のほうが新進の発表の場にはふさわしいものと思いました。また、「水仙丹前」は元禄風の遊女姿による上演のため、本曲の主題に照らして考えた場合、新進舞踊家の演者にとっては、また国立劇場主催公演という趣旨からも定式的な扮装(若衆姿か若女方姿)のほうがふさわしかったのではないでしょうか。
- ・ 9 月特別企画公演「十図と秋庭歌一具」:国立劇場が長年行ってきた柱の一つが、声明や雅楽の新作委嘱であることはいまでもなく、待望久しいものであった。同時に委嘱活動を一時の事業に終わらせないためにも、再演の機会は常に念頭におかなければならないと感じた。
- ・ 9 月特別企画公演「日本の太鼓」:長く続いた太鼓公演の復活で、これまでの蓄積や経緯を踏まえながらも、新しい方向性を模索した斬新な企画として評価できる。太鼓演奏の質は極めて高度で、芸にこだわって鑑賞する人々にとっては満足のいく公演だったが、伝統を重視する人々にとっては失望したかもしれない。全体的にバラエティに富んだ公演だったように感じたが、太鼓の響きよりは視覚的に興味を持てる場面が多いように感じた。
- ・ 11 月特別企画公演「津軽三味線を聴く」:津軽の地に生まれ育まれてきた芸能の力と可能性を感じさせてくれる、芸質・内容・演出共に充実した公演であった。第一部は民謡とのつながり、第二部は創作とコラボレーションで、伝統芸能の可能性を限りなく追及したと言える。特に第一部は津軽民謡の伴奏として、また独奏と曲弾き合戦は独り立ちした津軽三味線としての姿を見せてくれ、津軽の三味線が芸能として辿ってきた道筋を短い時間のなかに凝縮した企画だった。

(文楽劇場)

- ・ 5 月舞踊邦楽公演について、いつもながらバラエティに富んだ人選で、邦楽、邦舞のバランスもよく、こういうホープがいたのかと教えられることも多い。せつかくの和の世界に浸るよい機会なので、公演自体をもっと世間にアピールをしてもらいたい。また、事前に、管絃についての「プレ

講座」を行ったことも効果的だが、若い演者が多いだけに、当日も何かアフタートークのようなことを行えば、より親しみも増し邦楽邦舞への理解も深まるであろう。

- ・ 9 月特別企画公演について、声明という滅多に聞けない宗教的な伝統音楽に間近に触れ体感できた非常に貴重な公演であった。代表的な天台宗と真言宗の声明を、文楽劇場にその法要の空間を現出させ、見せながら聴かせる舞台演出が巧妙で、また前半と後半にこの二つを組んだ構成も誠に心憎く、声明それぞれの違いと多様性をくつきり浮かび上がらせて、まったく異なる印象と感動を覚えた。こうした日本の芸能の原点を見せる公演は国立の劇場でこそできることであり、意義深かったと思う。

4. アンケート調査  
実施せず

【特記事項】

- ・ 国立劇場開場 45 周年記念公演(本館、文楽劇場で実施の、9 月から 3 月の全公演)
- ・ 字幕表示装置により、詞章等を表示し鑑賞の助けとした。  
(4 月舞踊・邦楽)演奏に合わせて歌詞を表示  
(9 月声明・雅楽)演目解説や経文を舞台進行に合わせて表示  
(文楽劇場 9 月)演目解説を舞台進行に合わせて表示
- ・ 9 月公演「十牛図と秋庭歌一具」及び「日本の太鼓」は、東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、東京発・伝統 WA 感動実行委員会と共催で実施した。
- ・ 9 月公演「十牛図と秋庭歌一具」では、14 年振りの委嘱となる新作声明「十牛図」(作曲:菅野由弘)と過去の委嘱作品で現代の古典と評価の高い雅楽「秋庭歌一具」(作曲:武満徹)を上演した。「十牛図」では舞台上のスクリーンに「十牛図」の絵を投影し鑑賞の助けとした。
- ・ 9 月公演「日本の太鼓」では開場 45 周年企画として若手太鼓奏者のオーディションを行い、プロ奏者の指導による稽古を重ねた選抜メンバーが「太鼓アンサンブル」に出演した。宮本卯之助商店の協賛、浅野太鼓・三浦太鼓の協力を得た。
- ・ 9 月公演「日本の太鼓」において、株式会社宮本卯之助商店の協賛、株式会社浅野太鼓楽器店、株式会社三浦太鼓店の協力を得た。
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場 5 月、9 月公演)
- ・ 大阪文化祭参加(文楽劇場 5 月公演)
- ・ 文楽劇場 5 月公演プレ講座「もっと知りたい管弦の楽器たち」を開催した。(4 月 30 日、小ホール、参加者 95 名)
- ・ 文楽劇場 9 月公演プレ講座「聲(こえ)の魅力～密教系の声明を中心に～」を開催した。(8 月 27 日、小ホール、参加人数 194 名)

2-(1)-④ 大衆芸能

1. 公演実績

公演名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
【定席公演】	22 公演 演芸場	実績	242 回	219 日	31,368 人	(43.2%)	72,600 人
		計画	241 回	219 日	38,200 人	(52.8%)	72,300 人

【花形演芸会】	12 公演 演芸場	実績	12 回	12 日	3,188 人	(88.6%)	3,600 人
		計画	12 回	12 日	3,120 人	(86.7%)	3,600 人
【新春国立名人会】	1 公演 演芸場	実績	8 回	6 日	2,388 人	(99.5%)	2,400 人
		計画	8 回	6 日	2,200 人	(91.7%)	2,400 人
【国立名人会】	11 公演 演芸場	実績	11 回	11 日	3,187 人	(96.6%)	3,300 人
		計画	11 回	11 日	2,970 人	(90.0%)	3,300 人
【特別企画公演】	11 公演 演芸場	実績	17 回	15 日	4,703 人	(92.2%)	5,100 人
		計画	17 回	15 日	4,400 人	(86.3%)	5,100 人
【大衆芸能(演芸場)合計】	57 公演	実績	290 回	263 日	44,834 人	(51.5%)	87,000 人
		計画	289 回	263 日	50,890 人	(58.7%)	86,700 人
【師走浪曲名人会】	1 公演 文楽劇場	実績	1 回	1 日	598 人	(79.4%)	753 人
		計画	1 回	1 日	740 人	(98.3%)	753 人
【浪曲錬声会】	1 公演 文楽劇場小ホール	実績	2 回	1 日	236 人	(74.2%)	318 人
		計画	2 回	1 日	260 人	(81.8%)	318 人
【上方演芸特選会】	6 公演 文楽劇場小ホール	実績	24 回	24 日	3,310 人	(86.7%)	3,816 人
		計画	24 回	24 日	2,760 人	(72.3%)	3,816 人
【大衆芸能(文楽劇場)合計】	8 公演	実績	27 回	26 日	4,144 人	(84.8%)	4,887 人
		計画	27 回	26 日	3,760 人	(76.9%)	4,887 人
【大衆芸能公演 総合計】	65 公演	実績	317 回	289 日	48,978 人	(53.3%)	91,887 人
		計画	316 回	289 日	54,650 人	(59.7%)	91,587 人

## 2. 営業・広報

- ・ 広報として、インターネット・あぜくら会報・振興会ニュースの配布、公演ガイド等で国立演芸場に係る公演の周知に努めた。公共施設、学校、デパート、近隣の施設などの団体顧客にポスター・チラシを配布し、また、新聞記事、雑誌記事、新聞広告等により公演の宣伝を図った。
- ・ 営業活動として、23 年度用の団体向け案内状を作成し、定席公演の鑑賞についてセールスを行い、従来からの顧客にはダイレクトメールでも集客を図った。
- ・ 季節ごとの催事(6 月、7 月、正月、2 月、3 月) について、引き続き実施してサービスに努めた。
- ・ 23 年度より、定席公演及び若手新人公演について、シルバー(満 65 歳以上)料金をそれぞれ 1,100 円から 1,300 円に改定し、割引料金の適切な設定を図った。
- ・ 文楽劇場では、広報としてチラシ・ポスター・インターネット・文楽友の会会報・振興会ニュースの配布等で国立演芸場に係る公演の周知に努めた。また、近隣の劇場にもポスター・チラシを配布し、公演の宣伝を図った。

- ・ 文楽劇場における大衆芸能公演は、23 年度より全席指定席とし、シルバー（満 65 歳以上）料金をそれぞれ 1,100 円から 1,300 円に改定し、割引料金の適切な設定を図った。

### 3. 外部専門家等の意見

#### （演芸場）

- ・ 定席公演、企画公演、若手新人公演と、それぞれに特色を持たせ、バランスが良い。
- ・ 前売券の販売や、観客のマナーの良さなども、国立演芸場の魅力となっている。
- ・ 企画公演は、集客のみの成果を求めらるのではなく、今後の発展を視野に置いて企画して欲しい。
- ・ 若手の育成や、新作脚本の発掘など、国立演芸場ならではの意義深い仕事は、成果も上げている。
- ・ 震災の影響で一時観客数が落ち込んだが、復活の兆しを見せ始めている。引き続き努力されたい。

#### （文楽劇場）

- ・ 「上方演芸特選会」は団体の扱いがあり、客席は満席で非常に良い事だと思う。営業、企画、制作、宣伝他スタッフのみなさんご努力によるものだと思う。団体にはお客様の質も良く、きっと出演者もやりやすかったのではと思っている。

### 4. アンケート調査

#### （演芸場）

12 公演で実施（12 回）した。

回答数 1,357 人（配布数 3,155 人、回収率 43.0%）。回答者の 92.6%が概ね満足と答えた（1,257 人）。

#### （文楽劇場）

9 月上方演芸特選会・3 月上方演芸特選会で実施（2 回）

回答数 181 人（配布数 262 人、回収率 69.1%）回答者の 85.6%が概ね満足と答えた（155 人）

#### 【特記事項】

- ・ 平成 23 年度（第 66 回）文化庁芸術祭協賛公演（10 月・11 月公演、9 公演）
- ・ 関西元気文化圏共催事業（文楽劇場）
- ・ 大阪文化祭参加（文楽劇場 5 月上方演芸特選会・5 月浪曲錬声会）
- ・ 会員向けの催事「あぜくらの夕べ」で、国立演芸場の 24 年度襲名・真打昇進公演宣伝の一助になる催しを実施した。
- ・ 演芸場「被災者応援寄席」  
日本芸術文化振興会・落語協会・落語芸術協会・麴町連合町会サポーターズとの共催し、東日本大震災によって旧・プリンスホテル赤坂で避難生活を余儀なくされている被災者を招いて、「被災者寄席」（6 月 23 日、招待者数 256 人）を開催した。
- ・ 演芸場の 7 月～9 月の定席公演では、電力消費のピーク時における節電に協力するため、昼の部の開を通常の午後 1 時から午前 11 時に変更した。

#### 《数値目標の達成状況》

##### 【目標入場者数の達成状況】

実績 48,978 人／目標 54,650 人（達成度 89.6%）

《大衆芸能詳細表》

(1) 定席公演(上席・中席)

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4 月上席	演芸場	4/1(金)~10(日)	実績	11 回	10 日	808 人	(24.5%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,400 人	(42.4%)	3,300 人
4 月中席		4/11(月)~20(水)	実績	11 回	10 日	1,617 人	(49.0%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	3,000 人	(90.9%)	3,300 人
5 月中席		5/11(水)~20(金)	実績	11 回	10 日	1,348 人	(40.8%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,800 人	(54.5%)	3,300 人
6 月上席		6/1(水)~10(金)	実績	11 回	10 日	1,406 人	(42.6%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,400 人	(42.4%)	3,300 人
6 月中席		6/11(土) ~20(月)	実績	11 回	10 日	1,357 人	(41.1%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,700 人	(51.5%)	3,300 人
7 月上席		7/2(土) ~10(日)	実績	10 回	9 日	1,102 人	(36.7%)	3,000 人
			計画	10 回	9 日	1,500 人	(50.0%)	3,000 人
7 月中席	7/11(月) ~20(水)	実績	11 回	10 日	1,581 人	(47.9%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,400 人	(42.4%)	3,300 人	
8 月上席	8/1(月) ~10(水)	実績	11 回	10 日	953 人	(28.9%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,400 人	(42.4%)	3,300 人	
8 月中席	8/11(木) ~20(土)	実績	11 回	10 日	3,407 人	(103.2%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	3,000 人	(90.9%)	3,300 人	
9 月上席	9/1(木) ~10(土)	実績	11 回	10 日	630 人	(19.1%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,300 人	(39.4%)	3,300 人	
9 月中席	9/11(日) ~9/20(火)	実績	11 回	10 日	679 人	(20.6%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,500 人	(45.5%)	3,300 人	
10 月上席	10/1(土) ~10(月・祝)	実績	11 回	10 日	747 人	(22.6%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人	
10 月中席	10/11(火) ~20(木)	実績	11 回	10 日	834 人	(25.3%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,300 人	(39.4%)	3,300 人	
11 月上席	11/1(火) ~10(木)	実績	12 回	10 日	1,520 人	(42.2%)	3,600 人	
		計画	11 回	10 日	1,400 人	(42.4%)	3,300 人	
11 月中席	11/11(金) ~11/20(日)	実績	11 回	10 日	1,703 人	(51.6%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	2,000 人	(60.6%)	3,300 人	
12 月上席	12/1(木) ~10(土)	実績	11 回	10 日	1,033 人	(31.3%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,400 人	(42.4%)	3,300 人	

12 月中席	12/11(日)～20(火)	実績	11 回	10 日	1,205 人	(36.5%)	3,300 人
		計画	11 回	10 日	1,400 人	(42.4%)	3,300 人
1 月中席	1/11(水)～20(金)	実績	11 回	10 日	2,289 人	(69.4%)	3,300 人
		計画	11 回	10 日	2,500 人	(75.8%)	3,300 人
2 月上席	2/1(水)～10(金)	実績	11 回	10 日	1,342 人	(40.7%)	3,300 人
		計画	11 回	10 日	1,400 人	(42.4%)	3,300 人
2 月中席	2/11(土)～20(月)	実績	11 回	10 日	3,230 人	(97.9%)	3,300 人
		計画	11 回	10 日	3,000 人	(90.9%)	3,300 人
3 月上席	3/1(木)～10(土)	実績	11 回	10 日	1,522 人	(46.1%)	3,300 人
		計画	11 回	10 日	1,700 人	(51.5%)	3,300 人
3 月中席	3/11(日)～20(金)	実績	11 回	10 日	1,055 人	(32.0%)	3,300 人
		計画	11 回	10 日	1,500 人	(45.5%)	3,300 人
【定席公演】	22 公演(計画:22 公演)	実績	242 回	219 日	31,368 人	(43.2%)	72,600 人
		計画	241 回	219 日	38,200 人	(52.8%)	72,300 人

※ 追加貸切公演を計 2 回実施した。(11 月上席 1 回、3 月上席 1 回)

## 2. 営業・広報

マスコミへの宣伝材料の提供及びポスター・チラシ・インターネット・あぜくら会報・振興会ニュース、新聞広告に公演案内等を行った。

公演日程に合わせ学校ほか各種団体へ企画書を提出し、6 月には前年に引き続き「寄席の日」(6 月の第 1 月曜日)を落語協会、落語芸術協会及び都内の 4 演芸場と提携し、当日券の割引を実施した。

スタンプラリーも引き続き実施し、リピーターによる観客増につなげるよう務めた(1 回の観劇でスタンプを 1 回押し、スタンプ 5 個で粗品進呈)。

2 月上席の節分の日に入場者全員に豆を配布し、舞台からも豆撒きをして大いに喜ばれた。また、3 月上席の雛祭には入場者全員に雛あられを配布し、サービスに努めた。

## 3. 外部専門家等の意見

夏場の観客数が少なかった。ことに 7 月～9 月は開演時間を通常の午後 1 時開演から 2 時間早めて午前 11 時開演としたことで、昼食時間とも重なることから敬遠されたのではないかと。節電のため電力消費のピーク時を避ける、やむを得ない措置だろうが、残念であった。その中でも、8 月の桂歌丸の出演した中席は、ほぼ満席という大きな成果を上げた。昨年工事のため実施出来なかった 2 月中席の鹿芝居が復活し、連日多くの観客で賑わったことは、明るい話題となった。

## 4. アンケート調査

2 月中席公演で実施(1 回)

回答数 112 人(配布数 288 人、回収率 38.9%)。回答者の 94.6%が概ね満足と答えた(106 人)。

## 【特記事項】

・平成 23 年度(第 66 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月公演)

**(2) 若手新人公演(花形演芸会)**

1. 公演実績※ 目標入場者数:1公演当り 260人(86.7%)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	
4月花形演芸会(第383回)	演芸場	4/23(土)	実績	1回	1日	257人	(85.7%)	300人	
5月花形演芸会(第384回)		5/21(土)	実績	1回	1日	219人	(73.0%)	300人	
6月花形演芸会(第385回)		6/18(土)	実績	1回	1日	209人	(69.7%)	300人	
7月花形演芸会(第386回)		7/30(土)	実績	1回	1日	281人	(93.7%)	300人	
8月花形演芸会(第387回)		8/28(日)	実績	1回	1日	297人	(99.0%)	300人	
9月花形演芸会(第388回)		9/25(日)	実績	1回	1日	300人	(100.0%)	300人	
10月花形演芸会(第389回)		10/29(土)	実績	1回	1日	301人	(100.3%)	300人	
11月花形演芸会(第390回)		11/19(土)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人	
12月花形演芸会(第391回)		12/24(土)	実績	1回	1日	301人	(100.3%)	300人	
1月花形演芸会(第392回)		1/21(土)	実績	1回	1日	237人	(79.0%)	300人	
2月花形演芸会(第393回)		2/4(土)	実績	1回	1日	291人	(97.0%)	300人	
3月花形演芸会(第394回)		3/3(土)	実績	1回	1日	205人	(68.3%)	300人	
【花形演芸会】 12公演(計画:12公演)				実績	12回	12日	3,188人	(88.6%)	3,600人
				計画	12回	12日	3,120人	(86.7%)	3,600人

## 2. 営業・広報

マスコミへの宣伝材料の提供、ポスター・チラシ・インターネット・あぜくら会報・振興会ニュース、新聞広告等により公演の周知を図った。

## 3. 外部専門家等の意見

定席では見られない花形演芸会ならではの出演者の発掘がされている点は評価できる。花形演芸大賞を出すことで、演芸界に良い刺激となっているが、人気者が卒業していくなかで、次のスターを作り出す取り組みも常に課題となっている。

## 4. アンケート調査

8月・1月公演で実施(2回)

回答数 235人(配布数 501人、回収率 46.9%)。回答者の 93.2%が概ね満足と答えた(219人)。

## 【特記事項】

- ・ 平成 23 年度花形演芸大賞の受賞者
  - 大賞:春風亭一之輔
  - 金賞:三遊亭兼好、柳亭左龍、菊地まどか(浪曲)
  - 銀賞:桂吉弥、エネルギー(コント)

**(3) 新春国立名人会/国立名人会**

1. 公演実績  
(新春名人会)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
新春国立名人会	演芸場	1/2(月・祝)～7(土)	実績	8回	6日	2,388人	(99.5%)	2,400人
			計画	8回	6日	2,200人	(91.7%)	2,400人

(国立名人会)※ 目標入場者数:1公演当り270人(95.0%)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月国立名人会(第341回)	演芸場	4/24(日)	実績	1回	1日	298人	(99.3%)	300人
5月国立名人会(第342回)		5/22(日)	実績	1回	1日	285人	(95.0%)	300人
6月国立名人会(第343回)		6/25(土)	実績	1回	1日	257人	(85.7%)	300人
7月国立名人会(第344回)		7/24(日)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
8月国立名人会(第345回)		8/21(日)	実績	1回	1日	291人	(97.0%)	300人
9月国立名人会(第346回)		9/24(土)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
10月国立名人会(第347回)		10/23(日)	実績	1回	1日	292人	(97.3%)	300人
11月国立名人会(第348回)		11/23(水)	実績	1回	1日	292人	(97.3%)	300人
12月国立名人会(第349回)		12/25(日)	実績	1回	1日	298人	(99.3%)	300人
2月国立名人会(第350回)		2/26(日)	実績	1回	1日	296人	(98.7%)	300人
3月国立名人会(第351回)		3/25(日)	実績	1回	1日	292人	(97.3%)	300人
【国立名人会】		11公演 (計画:11公演)		実績	11回	11日	3,187人	(96.6%)
			計画	11回	11日	2,970人	(90.0%)	3,300人

2. 営業・広報

マスコミへの宣伝材料の提供、ポスター・チラシ・インターネット・あぜくら会報・振興会ニュースの配信・配布、新聞広告等により公演の周知を図り、集客に努めた。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 名人会はいつもその名にふさわしいでき栄えで、じっくり楽しめる会として高く評価できる。
- ・ 新春名人会は、他の寄席では各出演者の持ち時間が短くて新年の挨拶程度で入れ替わってしまうが、国立演芸場は新年から一席の噺を聴けるところが評価できる。
- ・ 新作落語なども取り入れて、バラエティに富んだ番組構成になるよう、さらに工夫して欲しい。

4. アンケート調査 3月公演で実施(1回)

回答数 134 人(配布数 279 人、回収率 48.0%)。回答者の 90.3%が概ね満足と答えた(121 人)。

【特記事項】

- ・平成 23 年度(第 66 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月公演)
- ・新春国立名人会の初日(1/2)には、吉例となった鏡開きを行い、観客にお酒を振舞った。

**(4) 特別企画公演**

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4 月特別企画公演 「東西競題会」	演芸場	4/29 (金)	実績	2 回	1 日	593 人	(98.8%)	600 人
			計画	2 回	1 日	500 人	(83.3%)	600 人
5 月特別企画公演 「立川流落語会」		5/27(金)～29(日)	実績	3 回	3 日	896 人	(99.6%)	900 人
			計画	3 回	3 日	850 人	(94.4%)	900 人
6 月特別企画公演 「花形演芸会スペシャル～受賞者の会～」		6/26 (日)	実績	1 回	1 日	291 人	(97.0%)	300 人
			計画	1 回	1 日	250 人	(83.3%)	300 人
7 月特別企画公演 「親子で楽しむ演芸会～寄席を楽しもう～」		7/23 (土)	実績	1 回	1 日	295 人	(98.3%)	300 人
			計画	1 回	1 日	250 人	(83.3%)	300 人
8 月特別企画公演 「浪曲の会－忠臣蔵特集－」		8/27 (土)	実績	1 回	1 日	292 人	(97.3%)	300 人
			計画	1 回	1 日	250 人	(83.3%)	300 人
9 月特別企画公演 「女が語る一人の絆」		9/23 (金)	実績	2 回	1 日	363 人	(60.5%)	600 人
			計画	2 回	1 日	500 人	(83.3%)	600 人
10 月特別企画公演 「桂歌丸 芸歴 60 周年を祝う会」	10/22 (土)	実績	1 回	1 日	295 人	(98.3%)	300 人	
		計画	1 回	1 日	250 人	(83.3%)	300 人	
11 月特別企画公演 「五代目圓楽一門会」	11/25(金)～27(日)	実績	3 回	3 日	822 人	(91.3%)	900 人	
		計画	3 回	3 日	800 人	(88.9%)	900 人	
12 月特別企画公演 「圓丈かぶき噺 「髪結新三」を聴く会」	12/23 (金)	実績	1 回	1 日	295 人	(98.3%)	300 人	
		計画	1 回	1 日	250 人	(83.3%)	300 人	
2 月特別企画公演 「マジック エンターテイメント」	2/25 (土)	実績	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人	
		計画	1 回	1 日	250 人	(83.3%)	300 人	

3月特別企画公演 「圓朝に挑む！」		3/24(土)	実績	1回	1日	291人	(97.0%)	300人
			計画	1回	1日	250人	(83.3%)	300人
【特別企画公演】 11公演 (計画:11公演)			実績	17回	15日	4,703人	(92.2%)	5,100人
			計画	17回	15日	4,400人	(86.3%)	5,100人

## 2. 営業・広報

マスコミへの宣伝材料、ポスター・チラシ・インターネット・あぜくら会報・振興会ニュースの配布・配信、新聞広告等により公演の周知及び広報に努め集客増を図った。

## 3. 外部専門家等の意見

- ・ 「立川流落語会」、「圓楽一門会」のような公演は、他の寄席では手掛けることのできない国立演芸場ならではの公演で、どちらもほぼ満席の集客を達成したことは次につながる成果と言える。

## 4. アンケート調査 4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月公演で実施(8回)

回答数 876人(配布数 2,087人、回収率 42.0%)。回答者の 92.6%が概ね満足と答えた(811人)。

## 【特記事項】

平成 23 年度(第 66 回)文化庁芸術祭協賛公演 (10月・11月)

## (5) 師走浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会

### 1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
師走浪曲名人会	文楽劇場	12/3(土)	実績	1回	1日	598人	(79.4%)	753人
			計画	1回	1日	740人	(98.3%)	753人
【師走浪曲名人会】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	598人	(79.4%)	753人
			計画	1回	1日	740人	(98.3%)	753人
浪曲錬声会	文楽劇場 小ホール	5/28(土)	実績	2回	1日	236人	(74.2%)	318人
			計画	2回	1日	260人	(81.8%)	318人
【浪曲錬声会】 1公演 (計画:1公演)			実績	2回	1日	236人	(74.2%)	318人
			計画	2回	1日	260人	(81.8%)	318人
5月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	5/16(月)~19(木)	実績	4回	4日	613人	(96.4%)	636人
			計画	4回	4日	460人	(72.3%)	636人
7月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	7/3(日)~6(水)	実績	4回	4日	574人	(90.3%)	636人
			計画	4回	4日	460人	(72.3%)	636人

9 月上方演芸特選会		9/25(日)~28(水)	実績	4 回	4 日	556 人	(87.4%)	636 人
			計画	4 回	4 日	460 人	(72.3%)	636 人
11 月上方演芸特選会		11/24(木)~27(日)	実績	4 回	4 日	412 人	(64.8%)	636 人
			計画	4 回	4 日	460 人	(72.3%)	636 人
1 月上方演芸特選会		1/9(日・祝)~ 12(木)	実績	4 回	4 日	540 人	(84.9%)	636 人
			計画	4 回	4 日	460 人	(72.3%)	636 人
3 月上方演芸特選会		3/9(金)~12(月)	実績	4 回	4 日	615 人	(96.7%)	636 人
			計画	4 回	4 日	460 人	(72.3%)	636 人
【上方演芸特選会】 6 公演 (計画:6 公演)			実績	24 回	24 日	3,310 人	(86.7%)	3,816 人
			計画	24 回	24 日	2,760 人	(72.3%)	3,816 人
【大衆芸能(文楽劇場)合計】 8 公演 (計画:8 公演)			実績	27 回	26 日	4,144 人	(84.8%)	4,887 人
			計画	27 回	26 日	3,760 人	(76.9%)	4,887 人

## 2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見及び取材依頼、テレビ出演、ポスター、チラシ、インターネット、文楽劇場友の会会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一層の集客に努めた。

## 3. 外部専門家等の意見

- ・ 「師走浪曲名人会」は毎年盛り上がるが、今年も各演者に盛大に声がかかり、会場はすこぶる良い熱気に包まれた。
- ・ 「浪曲錬声会」は、浪曲の聞かせ方に個々の持ち味があり、多様性を感じさせたが、大衆芸能という点でいかにお客を高揚させ楽しませるか、そのセンスと方向性を考えさせた公演でもあった。
- ・ 落語、漫才、浪曲の3ジャンル共、ぜいたくな出演者が揃い、非常にグレードの高い競演になったと思う。演者それぞれに芸の奥行きが感じられ、上方演芸を存分に楽しませてくれた。

## 4. アンケート調査

9 月上方演芸特選会、3 月上方演芸特選会で実施(2 回)

回答数 181 人(配布数 262 人、回収率 69.1%)。回答者の 85.6%が概ね満足と答えた(155 人)。

### 【特記事項】

- ・ 平成 23 年度(第 66 回) 文化庁芸術祭協賛公演(11 月上方演芸特選会)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場)
- ・ 「上方演芸特選会」は今回から全席座席指定となり、またシルバー料金を 1,100 円から 1,300 円に値上げした。
- ・ 大阪文化祭参加(5 月上方演芸特選会、5 月浪曲錬声会)

## 2-1-1-⑤ 能楽

### 1. 公演実績

区分	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
定例公演	20 公演	実績	20 回	20 日	11,586 人	(92.4%)	12,540 人
		計画	20 回	20 日	11,860 人	(94.6%)	12,540 人
普及公演	11 公演	実績	11 回	11 日	6,713 人	(97.3%)	6,897 人
		計画	11 回	11 日	6,523 人	(94.6%)	6,897 人
企画公演	19 公演	実績	20 回	20 日	11,387 人	(90.8%)	12,540 人
		計画	20 回	20 日	11,860 人	(94.6%)	12,540 人
鑑賞教室	1 公演	実績	10 回	5 日	6,240 人	(99.5%)	6,270 人
		計画	10 回	5 日	5,900 人	(94.1%)	6,270 人
【能楽 合計】	51 公演	実績	61 回	56 日	35,926 人	(93.9%)	38,247 人
		計画	61 回	56 日	36,143 人	(94.5%)	38,247 人

### 2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 月毎のポスター・チラシのほか、公演内容等に応じて適宜特別ポスター・特別チラシを作成・配布し、またホームページに公演内容等に応じて適宜トピックスを掲載して広報・宣伝に努めた。
- ・ 団体観劇への対応は、希望に応じてレクチャーを付けた。また適宜英文の特別チラシを作成し、都内の観光情報センター、ホテル、成田空港、大学の留学センター等に配布・設置して外国人利用者の集客を図った。
- ・ 7 月特別企画公演・新作能「影媛」は、以下の宣伝・広報に努めた結果、公演前の掲載・放送等は、新聞記事は主要 6 紙すべてを含む 11 件、雑誌記事 2 件であった。公演評等の公演後の掲載・放送等は、新聞記事 1 件、業界誌 1 件であった。

特別ポスター100 枚、特別チラシ 20,000 枚を作成・配布。

5 月 31 日(火)研修能舞台において新作能「影媛」試演会及び制作発表を開催。

出席者：馬場あき子、村上湛、大槻文藏、塩津哲生ほか

参加者：マスコミ関係 14 社 20 名

ホームページにトピックス等を掲載。

新作能「影媛」試演会及び制作発表レポートを掲載(HP トピックス 6/7)

新作能「影媛」稽古レポートを掲載(HP トピックス 7/13)

### 3. 外部専門家等の意見

- ・ 新作能「影媛」は馬場あき子氏の新作能の最高傑作である。長年あためて来られた古代の女の人が愛を貫く悲劇という主題がまずよく、詞章も美しく、補綴の村上湛氏の手になる能としての構成も見事であった。その上で、前狂言は、いささか長く、だれると思った。現代短歌もやはり全体としては違和感がある。東次郎師を初めとする山本家は好演であった。能は玄祥師の地謡が素晴らしく、詞章がよくわかった。
- ・ 復曲能「布留」は全体に演出面、とりわけ扮装に凝った能。白い布と剣とが重要な道具となっている。組立てはすっきりした能で、清澄な趣をもつ能と分かるが、舞台を見ただけでは十分に話がかかるとは言いがたい。復曲能であり、上演に当たり十分な配慮をふまえた新味がとりこめられていると思うが、そのよさが単純には理解できにくい恨みがある。演技が沈滞せず、そのため飽きさせない点は有難い。将来、折を見て更に上演してほしい曲である。

#### 4. アンケート調査

年間 51 公演のうち、7 公演にて 7 回実施した。

年間合計で回答数 1,960 人(配布数 3,857 人、回収率 50.8%)。回答者の 83.1%が概ね満足と答えた(1,629 人)。

#### 【特記事項】

- ・ 平成 23 年度(第 66 回)文化庁芸術祭主催(10 月 5 日定例公演)
- ・ 平成 23 年度(第 66 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月公演、8 公演)
- ・ 能楽堂では、座席字幕装置を活用して、5 月企画公演(蠟燭能)を除く 50 公演で、日本語(詞章)・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。
- ・ 電力消費のピーク時における節電に協力するために、通常 13 時の開演時間を 12 時に変更した。(7 月 6 日定例公演、9 月 7 日定例公演)

#### 《数値目標の達成状況》

#### 【目標入場者数の達成状況】

実績 35,926 人／目標 36,143 人(達成度 99.4%)

#### 《能楽詳細表》

#### (1) 定例公演

1. 公演実績 ※目標入場者数:1 回当たり 593 人(94.6%)、劇場:能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
狂言「八句連歌」、能「高野物狂(元禄本による)」	4/6(水)	実績	1 回	1 日	617 人	(98.4%)	627 人
狂言「鞍馬参り」、能「小塩車之仕方」	4/15(金)	実績	1 回	1 日	439 人	(70.0%)	627 人
狂言「禁野」、能「杜若袖神楽素囃子」	5/11(水)	実績	1 回	1 日	475 人	(75.8%)	627 人
狂言「飛越」、能「石橋大獅子」	5/20(金)	実績	1 回	1 日	547 人	(87.2%)	627 人

狂言「磁石」、能「半蔀」	6/1(水)	実績	1回	1日	533人	(85.0%)	627人
狂言「音曲髯」、能「通盛」	6/17(金)	実績	1回	1日	618人	(98.6%)	627人
狂言「樋の酒」、能「雨月」	7/6(水)	実績	1回	1日	614人	(97.9%)	627人
狂言「呼声」、能「蟬丸替之型」	7/13(水)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
狂言「真奪」、能「芭蕉」	9/7(水)	実績	1回	1日	545人	(86.9%)	627人
狂言「鈍根草」、能「花筐」	9/16(金)	実績	1回	1日	561人	(89.5%)	627人
狂言「萩大名」、能「安宅勸進帳・酌掛之伝」	10/5(水)	実績	1回	1日	607人	(96.8%)	627人
狂言「菊の花」、能「松風」	10/21(金)	実績	1回	1日	612人	(97.6%)	627人
狂言「宗論」、能「通小町替装束」	11/18(金)	実績	1回	1日	619人	(98.7%)	627人
狂言「酒講式」、能「野守」	11/30(水)	実績	1回	1日	614人	(97.9%)	627人
狂言「雁磔」、能「融」	12/16(金)	実績	1回	1日	615人	(98.1%)	627人
狂言「筑紫奥」、能「羽衣床几之物着」	1/7(土)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
狂言「隠狸」、能「巴」	1/20(金)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
狂言「長光」、能「弱法師」	2/1(水)	実績	1回	1日	604人	(96.3%)	627人
狂言「縄綯」、能「箆」	3/2(金)	実績	1回	1日	484人	(77.2%)	627人
狂言「樽髯」、能「誓願寺来迎拍子」	3/28(水)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
【定例公演 小 計】 20 公演(計画:20 公演)		実績	20回	20日	11,586人	(92.4%)	12,540人
		計画	20回	20日	11,860人	(94.6%)	12,540人

## 2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 毎月のポスター・チラシのほか、公演内容等に応じて適宜特別ポスター・特別チラシを作成・配布し、またホームページに公演内容等に応じて適宜トピックスを掲載して広報・宣伝に努めた。
- ・ 団体観劇への対応は、希望に応じてレクチャーを付けた。また適宜英文の特別チラシを作成し、都内の観光情報センター、ホテル、成田空港、大学の留学センター等に配布・設置して外国人利用者の集客を図った。

### 3. 外部専門家等の意見

- ・「八句連歌」桜が満開の頃、時宜を得た選曲である。万作のシテに萬斎のアド。さすがに親子だけあって呼吸はピッタリ。連歌の掛け合いの背景に借金のやり取りを絡ませた、現代の観客には分かりづらい内容の曲であるが、変に説明的ではなく、さらっと上品に仕上げている。
- ・「高野物狂(元禄本による)」震災後の国立能楽堂主催公演の再開にふさわしい名演であった。開始のシテの次第「影頼むべき行く末や、若木の花をそだてん」は聞き手の心に響いてくる力強さで、この舞台の成功を予感させた。「元禄本による」上演は、細部ではかなり変化があるものの、本質的には、さして違いはない。しかし流儀ごとに詞章が固定しきっている現代の能にあって、こうした試みは、まことに好ましい。
- ・「飛越」小品ながらもなかなか味のある舞台であった。両者が相手のちょっとしたことに腹を立てていく様子がうまく伝わってきた。今でも有りそうな人間関係を絶妙に描いていて、狂言の面白さをあらためて感じた。
- ・能「石橋 大獅子」前場はワキの福王和幸とシテの観世芳伸の骨太のやり取りに見応えがあり、後場の獅子舞はダイナミックで見応え十分であった。白獅子は貫禄十分で、赤獅子との呼吸もよく合っていた。関根祥丸は父親を思わせる技の切れがあり、今後がおおいに期待される。万蔵のアイが出色。いかにも五台山の仙人のようで、登場から観客を引きつける。その語りの巧みさは、アイ狂言でも観客を飽きさせないことを十分に実証した。

### 4. アンケート調査

年間 20 公演のうち、1 公演にて 1 回実施した。(7 月 6 日)

回答数 315 人(配布数 591 人、回収率 53.3%)。回答者の 80.3%が概ね満足と答えた(253 人)。

#### 【特記事項】

- ・平成 23 年度(第 66 回)文化庁芸術祭主催(10 月 5 日定例公演)
- ・平成 23 年度(第 66 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月公演)
- ・能楽堂では、座席字幕装置を活用して、全公演で、日本語(詞章)・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。
- ・電力消費のピーク時における節電に協力するために、通常 13 時の開演時間を 12 時に変更した。(7 月 6 日定例公演、9 月 7 日定例公演)

## (2) 普及公演

### 1. 公演実績 ※目標入場者数:1 回当り 593 人(94.6%)、劇場:能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
解説・能楽あんない「多祐の藤波」 狂言「鎌腹」、能「藤」	4/9(土)	実績	1 回	1 日	603 人	(96.2%)	627 人
解説・能楽あんない「能の「橋」物語」 狂言「船渡聲」、能「東岸居士橋立」	5/14(土)	実績	1 回	1 日	563 人	(89.8%)	627 人
解説・能楽あんない「義経伝説と盗賊」 狂言「子盗人」、能「熊坂長床几・青野ヶ原道行」	6/11(土)	実績	1 回	1 日	624 人	(99.5%)	627 人
解説・能楽あんない「頼風の悔恨一女郎花を読む」 狂言「地蔵舞」、能「女郎花」	7/9(土)	実績	1 回	1 日	618 人	(98.6%)	627 人

解説・能楽あんない「敦盛さまー田唄よりー」 狂言「墨塗」、能「生田敦盛」	9/10(土)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
解説・能楽あんない「阿漕ー死してまだ消えぬ漁への執心ー」 狂言「痠痺」、能「阿漕」	10/8(土)	実績	1回	1日	587人	(93.6%)	627人
解説・能楽あんない「玉藻前と殺生石伝説」 狂言「二九十八」、能「殺生石白頭」	11/12(土)	実績	1回	1日	618人	(98.6%)	627人
解説・能楽あんない「めおとの神ー「高砂」と中世の注釈世界ー」 狂言「横座」、能「高砂」	12/10(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
解説・能楽あんない「長恨歌の艶」 狂言「棒縛」、能「楊貴妃」	1/14(土)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
解説・能楽あんない「邯鄲ー哲学的に人生を考える能」 狂言「花折」、能「邯鄲」	2/11(土)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
解説・能楽あんない「時の鼓」 狂言「長刀応答」、能「籠太鼓」	3/24(土)	実績	1回	1日	614人	(97.9%)	627人
【普及公演 小 計】 11 公演(計画:11 公演)	実績		11回	11日	6,713人	(97.3%)	6,897人
	計画		11回	11日	6,523人	(94.6%)	6,897人

## 2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 月毎のポスター・チラシのほか、公演内容等に応じて適宜特別ポスター・特別チラシを作成・配布し、またホームページに公演内容等に応じて適宜トピックスを掲載して広報・宣伝に努めた。
- ・ 団体観劇への対応は、希望に応じてレクチャーを付けた。また適宜英文の特別チラシを作成し、都内の観光情報センター、ホテル、成田空港、大学の留学センター等に配布・設置して外国人利用者の集客を図った。

## 3. 外部専門家等の意見

- ・ 「東岸居士 橋立」シテは勸進柄杓を持つての登場。橋勸進の芸能宗教者であることをあらわすための工夫であろうが、面白い試みであった。ただし、ただ持っているだけではなく、少し勸進の所作を加えて目立つようにしたかった。
- ・ 「子盗人」石田幸雄が人の良い小悪党(博奕打)を好演。亭主を万作が演じるのはちょっとした贅沢で、配役に妙があった。
- ・ 「痠痺」子供がシテをつとめることが多い演目を、当代を代表する狂言役者である東次郎が演じることで、この狂言本来の面白さが浮かび上がった。弟の則俊との息もあって、よい舞台であった。
- ・ 「籠太鼓」いわゆる遠い演目であるが、このような劇的な能を普及公演に出すのはよいことだと思う。前半はアイが活躍して台詞劇のよさが出ている。吉住講は口跡もよく、メリハリの効いた

小気味よい演技で舞台に弾みを付けていた。今日のように遠い演目を出す場合は、事前の解説が大事である。村瀬和子氏は丁寧に分かり易く両曲の内容をお話しされて、鑑賞の助けになったと思われる。

#### 4. アンケート調査

年間 11 公演のうち、1 公演にて 1 回実施した。(10 月 8 日)

回答数 316 人(配布数 560 人、回収率 56.4%)。回答者の 79.4%が概ね満足と答えた(251 人)。

#### 【特記事項】

- ・平成 23 年度(第 66 回) 文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月公演)
- ・能楽堂では、座席字幕装置を活用して、全公演で、日本語(詞章)・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。

### (3) 企画公演

#### 1. 公演実績 ※目標入場者数:1 回当り 593 人(94.6%)、劇場:能楽堂

	公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
狂言の会	狂言「魚説経」、狂言「通円」、狂言「素袍落」	4/28(木)	実績	1 回	1 日	456 人	(72.7%)	627 人
企画公演	蠟燭の灯りによる 狂言「岩橋」、能「頼政」	5/26(木)	実績	1 回	1 日	498 人	(79.4%)	627 人
特別企画	新作能「影媛」	7/29(金) ~30(土)	実績	2 回	2 日	1,089 人	(86.8%)	1,254 人
企画公演	働く貴方に贈る 対談、能「隅田川」	8/5(金)	実績	1 回	1 日	617 人	(98.4%)	627 人
企画公演	夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「紅葉狩鬼揃」	8/13(土)	実績	1 回	1 日	622 人	(99.2%)	627 人
企画公演	素の魅力 素囃子「鶴ノ舞」、袴狂言「呼声」、仕舞「山姫」、仕舞「砦キリ」、舞囃子「夢殿」、能舞「水の曲」	8/25(木)	実績	1 回	1 日	598 人	(95.4%)	627 人
企画公演	夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「二人袴」、狂言「首引」	8/27(土)	実績	1 回	1 日	622 人	(99.2%)	627 人
企画公演	能と雅楽—延命長寿への憧れ— 管絃「海青楽」他、能「寝覚」	9/21(水)	実績	1 回	1 日	416 人	(66.3%)	627 人
企画公演	能と雅楽—延命長寿への憧れ— 管絃「春過」他、能「彭祖」	9/23(金)	実績	1 回	1 日	469 人	(74.8%)	627 人
特別	能「鶺鴒祭」、狂言「寝音曲」、能「実盛」	10/29(土)	実績	1 回	1 日	619 人	(98.7%)	627 人
企画公演	古典の日記念 人待つ虫の音 箏曲「小督の曲」、狂言「月見座頭」、能「松虫」	11/2(水)	実績	1 回	1 日	610 人	(97.3%)	627 人

狂言の会	狂言「鞠猿」、狂言「酢薑」、狂言「鬨罪人」	11/25(金)	実績	1回	1日	610人	(97.3%)	627人
企画公演	世阿弥自筆本による 狂言「宝の笠」、復曲能「布留」	12/7(水)	実績	1回	1日	619人	(98.7%)	627人
特別	仕舞「芭蕉キリ」、狂言「米市」、能「山姥雪月花」	12/24(土)	実績	1回	1日	618人	(98.6%)	627人
狂言の会	狂言「松脂」、狂言「連歌盗人」、狂言「茶子味梅」	1/25(水)	実績	1回	1日	610人	(97.3%)	627人
企画公演	世阿弥自筆本による 狂言「清水」、能「難波梅」	1/28(土)	実績	1回	1日	614人	(97.9%)	627人
企画公演	世阿弥自筆本による 狂言「御茶の水」、能「松浦佐用姫」	2/16(木)	実績	1回	1日	556人	(88.7%)	627人
企画公演	女性能楽師による 能「百万」、能「天鼓弄鼓之舞」	2/25(土)	実績	1回	1日	528人	(84.2%)	627人
企画公演	復興と文化—東日本大震災から一年— 講演「語りきれないこと-災害からの復興と文化の力-」、能「砧梓之出」	3/16(金)	実績	1回	1日	616人	(98.2%)	627人
【企画公演 小計】19 公演(計画:19 公演)			実績	20回	20日	11,387人	(90.8%)	12,540人
			計画	20回	20日	11,860人	(94.6%)	12,540人

(能楽鑑賞教室)

	公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
鑑賞教室	6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「蝸牛」、 能「小鍛冶」	6/20(月)~24(金)	実績	10回	5日	6,240人	(99.5%)	6,270人
			計画	10回	5日	5,900人	(94.1%)	6,270人

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 月毎のポスター・チラシのほか、公演内容等に応じて適宜特別ポスター・特別チラシを作成・配布し、またホームページに公演内容等に応じて適宜トピックスを掲載して広報・宣伝に努めた。
- ・ 団体観劇への対応は、希望に応じてレクチャーを付けた。また適宜英文の特別チラシを作成し、都内の観光情報センター、ホテル、成田空港、大学の留学センター等に配布・設置して外国人利用者の集客を図った。
- ・ 7月特別企画公演・新作能「影媛」は、以下の宣伝・広報に努めた結果、公演前の掲載・放送等は、新聞記事は主要6紙すべてを含む11件、雑誌記事2件であった。公演評等の公演

後の掲載・放送等は、新聞記事1件、業界誌1件であった。  
特別ポスター100枚、特別チラシ20,000枚を作成・配布。  
5月31日(火)研修能舞台において新作能「影媛」試演会及び制作発表を開催。  
出席者:馬場あき子、村上湛、大槻文蔵、塩津哲生ほか  
参加者:マスコミ関係14社20名  
ホームページにトピックス等を掲載。  
新作能「影媛」試演会及び制作発表レポートを掲載(HPトピックス6/7)  
新作能「影媛」稽古レポートを掲載(HPトピックス7/13)

### 3. 外部専門家等の意見

- ・ 「影媛」は馬場あき子氏の新作能の最高傑作である。長年あためて来られた古代の女が愛を貫く悲劇という主題がまずよく、詞章も美しく、補綴の村上湛氏の手になる能としての構成も見事であった。その上で、前狂言は、いささか長く、だれると思った。現代短歌もやはり全体としては違和感がある。東次郎師を初めとする山本家は好演であった。能は玄祥師の地謡が素晴らしく、詞章がよくわかった。
- ・ 「布留」全体に演出面、とりわけ扮装に凝った能。白い布と剣とが重要な道具となっている。組立てはすっきりした能で、清澄な趣をもつ能と分かるが、舞台を見ただけでは十分に話がかかるとは言いがたい。復曲能であり、上演に当たり十分な配慮をふまえた新味がとりこめられていると思うが、そのよさが単純には理解できにくい恨みがある。演技が沈滞せず、そのため飽きさせない点は有難い。将来、折を見て更に上演してほしい曲である。
- ・ 「難波梅」脇能らしく、賑々しく、堂々たる舞台であった。前場の三郎太は難しい稚児をうまくこなしていた。しかし、もう子方は卒業か。後場の木花咲耶姫は紀彰が演じていたが、稚児の方が老体の神とのコントラストが鮮明になってよかったのではなかろうか。玄祥は前シテの端正さといい、後ジテの風格といい、流石である。舞事は[楽]であったが、[神舞]よりも[楽]の方が相応しいことを認識した。時折舞楽風な所作もいれていたか。通常の[楽]よりも格式張った舞ぶりが曲調にあっていたようだ。比較的若手が揃った囃子方もなかなか頑張っていた。
- ・ 「松浦佐用姫」この曲は文蔵のシテで大阪でも観ているが、一段と練り込まれて素晴らしい舞台に深化していた。雪持ち笠の前シテが登場するだけで雪景色が眼前に広がるように見えるのは文蔵の資質はもちろん芸の蓄積があつてこそであろう。地謡が初めから終わりまで素晴らしく、明晰な謡声から佐用姫の恋の悲劇がダイレクトに見所に染み入ってくる。クセの後半で舞うのも効果的であった。後場は鏡の使い方のこなれており、橋掛りでのヒレフリなど、激しい佐用姫の恋情が遺憾なく表現され、舞台に引き込まれた。

### 4. アンケート調査

年間20公演のうち、5公演にて5回実施した。(8月25日、9月23日、12月7日、1月25日、2月25日)  
回答数1,329人(配布数2,706人、回収率49.1%)。回答者の84.7%が概ね満足と答えた(1,125人)。

### 【特記事項】

- ・ 平成23年度(第66回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月公演)
- ・ 能楽堂では、座席字幕装置を活用して、5月企画公演(蠟燭能)を除く全公演で、日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

・ 9月21日企画公演において、台風15号の影響により、開場から開演にかけての時間帯に広範囲な交通機関の遅延・運休等が生じたため、多数の観客が遅刻あるいは来場不可能となった。このため、公演は予定どおり行ったが、交通障害により来場できなかった観客に対してはチケット代金相当の払戻しを実施した。

2-(1)-⑥ 組踊等沖縄伝統芸能

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月定期公演 琉球舞踊公演「新進舞踊家の会」	国立劇場 おきなわ 大劇場	4/23(土) ～24日 (日)	実績	2回	2日	404人	(32.4%)	1,246人
			計画	2回	2日	758人	(60.4%)	1,255人
5月定期公演 沖縄芝居公演「多幸山」		5月29日 (日)※1	実績	1回	1日	479人	(76.9%)	623人
			計画	2回	2日	664人	(53.1%)	1,251人
7月定期公演 組踊公演「万歳敵討」		7/9(土)	実績	1回	1日	371人	(65.5%)	566人
			計画	1回	1日	347人	(61.4%)	565人
8月定期公演 民俗芸能公演「沖縄本島民俗芸能祭」		8/28(日)	実績	1回	1日	582人	(94.0%)	619人
			計画	1回	1日	474人	(76.6%)	619人
9月定期公演 組踊公演「久志の若按司」		9/3(土)	実績	1回	1日	443人	(77.9%)	569人
			計画	1回	1日	347人	(61.4%)	565人
10月定期公演 組踊公演「大城崩」		10/1(土)	実績	1回	1日	414人	(73.3%)	565人
			計画	1回	1日	347人	(61.4%)	565人
11月定期公演 琉球舞踊公演「創作舞踊」	11/26(土)	実績	1回	1日	207人	(33.2%)	623人	
		計画	1回	1日	379人	(60.8%)	623人	
12月定期公演 琉球舞踊公演「八重山の歌と踊り」	12/11(日)	実績	1回	1日	397人	(63.7%)	623人	
		計画	1回	1日	379人	(60.8%)	623人	
12月定期公演 組踊公演「花売の縁」	12/24(土)	実績	1回	1日	433人	(76.6%)	565人	
		計画	1回	1日	347人	(61.4%)	565人	
1月定期公演 琉球舞踊公演「新春 琉舞名人選～嘉例吉の舞～」	1/7(土)	実績	1回	1日	290人	(46.5%)	623人	
		計画	1回	1日	411人	(66.0%)	623人	

1月定期公演 琉球舞踊公演 「新春 琉舞名人選～新春を寿ぐ～」	大劇場	1/8(日)	実績	1回	1日	481人	(77.2%)	623人	
			計画	1回	1日	411人	(66.0%)	623人	
1月定期公演 組踊公演「執心鐘入」「手水の縁」		1/21(土) ～22(日)	実績	2回	2日	749人	(65.8%)	1,138人	
			計画	2回	2日	752人	(65.8%)	1,143人	
2月定期公演 琉球舞踊公演「重要無形文化財保持者公演 琉球舞踊鑑賞会」		2/5(日)	実績	1回	1日	490人	(78.7%)	623人	
			計画	1回	1日	411人	(66.0%)	623人	
2月定期公演 組踊公演「賢母三遷の巻」		2/11(土)	実績	1回	1日	256人	(45.0%)	569人	
			計画	1回	1日	347人	(61.4%)	565人	
3月定期公演 組踊公演「父子忠臣の巻」		3/3(土)	実績	1回	1日	384人	(68.0%)	565人	
			計画	1回	1日	347人	(61.4%)	565人	
3月定期公演 三線音楽公演「安富祖流の美」		3/17(土)	実績	1回	1日	371人	(59.6%)	623人	
			計画	1回	1日	316人	(50.7%)	623人	
8月定期公演 三線音楽公演 「～大島保克が誘う晩夏の夜会～琉球弧の島唄」		小劇場 8/20(土)	実績	1回	1日	141人	(56.6%)	249人	
			計画	1回	1日	191人	(76.7%)	249人	
【定期公演 小 計】 17公演(計画17公演)			実績	19回	19日	6,892人	(62.6%)	11,012人	
			計画	20回	20日	7,228人	(62.1%)	11,645人	
6月企画公演 「沖縄新作芝居 九年母の木の木の下で」		大劇場	6/25(土) ～26(日)	実績	2回	2日	675人	(54.3%)	1,242人
	計画			2回	2日	664人	(53.1%)	1,251人	
7月企画公演 「歌舞劇『首里城物語』」	7/23(土) ～24(日)		実績	2回	2日	779人	(68.5%)	1,138人	
			計画	2回	2日	664人	(53.1%)	1,251人	
10月企画公演 「我らが住むは五大州」	10/15(土) ～16(日)		実績	2回	2日	1,020人	(82.1%)	1,242人	
			計画	2回	2日	727人	(58.1%)	1,251人	
11月企画公演 「国立劇場寄席」	11/3(木)		実績	1回	1日	589人	(94.5%)	623人	
			計画	1回	1日	474人	(76.1%)	623人	
11月企画公演 「アジア・太平洋地域の芸能 韓国の伝統音楽と舞踊」	11/13(日)		実績	1回	1日	372人	(60.1%)	619人	
			計画	1回	1日	316人	(51.1%)	619人	
12月特別企画組踊公演 「人間国宝・至芸の宴」 ※計画外の公演	12/20(火) ※2		実績	1回	1日	502人	(81.1%)	619人	
			計画	—	—	—	—	—	

1月企画公演「新作組踊『サンバの契り』」		1/12(木) ※3	実績	1回	1日	307人	(54.2%)	566人
			計画	2回	2日	664人	(53.1%)	1,251人
2月企画公演「文楽公演」		2/25(土) ～26(日)	実績	4回	2日	1,560人	(66.1%)	2,360人
			計画	4回	2日	1,600人	(65.4%)	2,447人
【企画公演 小計】 8公演(計画7公演)			実績	14回	12日	5,804人	(69.0%)	8,409人
			計画	14回	12日	5,109人	(58.8%)	8,693人
御冠船踊の世界(組踊 忠臣身替の巻)	大劇場	5/15(日)	実績	1回	1日	398人	(69.9%)	569人
			計画	1回	1日	405人	(71.7%)	565人
【研究公演 小計】 1公演(計画1公演)			実績	1回	1日	398人	(69.9%)	569人
			計画	1回	1日	405人	(71.7%)	565人
4月普及公演「社会人のための組踊鑑賞教室『雪払い』」		4/16(土)	実績	1回	1日	457人	(80.9%)	565人
			計画	1回	1日	347人	(61.4%)	565人
8月普及公演「親子のための組踊鑑賞教室『雪払い』」		8/6(土)	実績	1回	1日	433人	(74.9%)	578人
			計画	1回	1日	405人	(70.1%)	578人
10月普及公演「生徒のための組踊鑑賞教室『雪払い』(高校生対象)」	大劇場	10/27(木) ～ 28(金)	実績	3回	2日	1,370人	(79.0%)	1,734人
			計画	3回	2日	1,301人	(75.0%)	1,734人
11月普及公演「生徒のための組踊鑑賞教室『雪払い』(小・中学生対象)」		11/17(木)	実績	2回	1日	1,010人	(87.4%)	1,156人
			計画	2回	1日	867人	(75.0%)	1,156人
11月普及公演「生徒のための組踊鑑賞教室『雪払い』(学生等対象)」		11/18(金)	実績	2回	1日	1,060人	(91.7%)	1,156人
			計画	2回	1日	867人	(75.0%)	1,156人
【普及公演 小計】 5公演(計画5公演)			実績	9回	6日	4,330人	(83.4%)	5,189人
			計画	9回	6日	3,787人	(73.0%)	5,189人
【組踊等沖縄伝統芸能 合計】 31公演(計画30公演)			実績	43回	38日	17,424人	(69.2%)	25,179人
			計画	44回	39日	16,529人	(63.3%)	26,092人

※1)国立劇場おきなわの5月沖縄芝居公演「多幸山」は、台風2号接近の影響により5月28日公演については中止(同29日公演は実施)した。

※2)7月15日に「組踊歌三線」の人間国宝として西江喜春氏が認定されたことにより、記念公演として12月に企画公演「人間国宝・至芸の宴」を行った。

※3)国立劇場おきなわ9月企画公演「新作組踊『サンバの契り』」は、台風15号接近のため、当初計画2回のうち1回を中止、1回は1月12日(木)の夜に延期して実施した。

## 2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社、県内情報雑誌への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、国立劇場おきなわ友の会会報誌等により公演の周知を図った。
- ・ 県内の約 700 カ所(県、市町村及び教育機関、主な企業等)に各公演のチラシを配布し、近隣市町村自治会等を訪問して公演案内を実施した。
- ・ 公演に関係する団体へダイレクトメールで公演を紹介し、その中で有望と思われる団体へは直接訪問して効果的な周知を図った。
- ・ 6 月企画公演「九年母の木の下で」及び 1 月企画公演「サシバの契り」では、稽古場レポートを行い、劇場ロビーや HP に掲載した。
- ・ 夏休み親子劇場探検ツアーでは、ロビーにおいて歓迎の三線等の演奏をし、参加者をもてなした。
- ・ 10 月企画公演「我らが住むは五大州」では、沖縄県(ウチナーンチュ大会)と連携して PR を行った。
- ・ 2 月企画公演「文楽公演」では、11 月に大型商業施設及び当劇場において「やさしい文楽入門講座」を実施した。また、地元新聞 2 紙に文楽についての投稿を行い公演の PR を行った。さらに、公演前日には出演者が沖縄県副知事を表敬訪問し、また NHK 沖縄の情報番組に出演して公演の PR を行った。
- ・ 沖縄県庁 1 階県民ホールにて、12 月 5～9 日にポスター展を実施した。
- ・ デパート(パレットくもじ)1 階エントランスホールにて、12 月 26 日～1 月 7 日にポスター展を実施した。
- ・ 1 月琉球舞踊公演「新春琉舞名人選」の新春公演では、公演 2 日間計 250 名に呈茶を実施し、幕間に抽選による観客へのお年玉プレゼント(2 日で 20 名、カレンダー、劇場グッズなどの詰め合わせ)を行い、初春公演の雰囲気盛り上げた。

## 3. 外部専門家等の意見

- ・ 5 月定期公演沖縄芝居「多幸山」では、第 1 部での八木政男氏の解説・案内がユニークで、昔を偲ばせる風情を見るようであった。歯がゆい場面もあったが「正義が勝つ」がしっかり表現されていた。若手の役者が名優「真喜志康忠」氏の代表作に触れる事ができ、大変良かったと思う。
- ・ 7 月定期公演の組踊公演「万歳敵討」では、橋懸かりを用いた舞台での舞踊・組踊の鑑賞は初めてで違和感があったが、試みとしてはよい。「万歳敵討」は少々役柄的にアンバランスな面もあったが、精一杯努めているようだった。方と地謡のタイミングはとてもよかった。全体的に着付け、髪飾りの差し方をチェックする方がよい。
- ・ 7 月企画公演 歌舞劇「首里城物語」では、演出、音楽とも若手による新たな出発の舞台であった。オーケストラピットに地謡を入れた試みなど沖縄芸能の新しい動きを感じさせる舞台であった。以前も同じ作品を見たが、今回は台本訳、補綴、そして演出までを嘉数道彦、音楽も具志幸大という若手が取り組んだせい、印象がかなり違い、新しい作品を観ているようだった。
- ・ 10 月企画公演「我らが住むは五大州」では、「伊計離節」の仲宗根シャーロールさん、良江さんの踊りに金武良章(仁風会)先生の手が残っていて、とてもなつかしく感じた。一番感心したのが地謡だった。また「案内役」で出演している村田定彌 Grant 氏の 3ヶ国語を交えてのスピーチが大変良かった。
- ・ 11 月定期公演の琉球舞踊公演「創作舞踊」では、今年は東日本大震災の影響か、入賞した両作

品とも平和を願う作品であった。創作はオリジナルな発想が要求されるので、その点で 2 作品は良かったと思う。

- ・ 12 月定期公演の琉球舞踊公演「八重山の歌と踊り」では、西表島の古見の演目では「御前風」が若衆踊りで踊られること、まだ古い形を残した総掛踊りの「しちよう節」が印象深く、古い形の琉球舞踊が八重山に伝わり、その原型がこのような形で傳承されているのだということに感動さえ覚えた。
- ・ 1 月定期公演の琉球舞踊公演「新春 琉舞名人選」では、古典女踊りが 4 曲あり、衣裳ではそれぞれが考えられていて、色合いや柄が重ならないようにしたのかそれぞれの個性を出して、観る側を楽しませてくれた。二才踊りにしても衣裳が黒以外の色だったので良かったと思う。実演家同士が歩みより、衣裳の件では観客を楽しませるための話し合いが前もって必要だと思った。
- ・ 1 月定期公演の組踊公演「執心鐘入」「手水の縁」では、第 1 部の「執心鐘入」は、2 番坊主に声量がありすぎるなど役柄としてアンバランスであった点と、鬼女の場面で迫力が欠けていたように感じた。また地謡も緊張のためか音程をはずした箇所が見受けられ、課題を残す公演であったように思う。第 2 部の「手水の縁」は、品位がある舞台であった。細かい所作にも心配りがあり感動した。久し振りにいい「手水の縁」を見たような気がする。
- ・ 1 月企画公演 新作組踊「サシバの契り」では、花道を利用する演出もユニークだが、最後のサシバの所作等は舞台正面で見たかった。新作物には、今回のようにどンドン若者を出演させてほしい。組踊では地謡に女性は起用しないが、今後新作組踊等では、必要とする場面ではチャレンジさせてほしい。違和感がなくかえて女性的心情が表現されていた。
- ・ 2 月定期公演の琉球舞踊公演「琉球舞踊鑑賞会」では、今回の公演で、創作あるいは振付舞踊がありましたが、国指定公演でそれが許されるなら、各先生方の創作舞踊を是非披露してもらいたい。
- ・ 2 月企画公演「文楽公演」では、開演当初は、頭巾を被らない主遣いの方々の顔が気になって人形の動きに集中できなかった。しかし、劇が進行するにつれて太夫の語りが素晴らしく、それに添って演じている人形が人形と感じられなくなり、文楽の素晴らしさ、またそれを傳承している皆さんの技のすごさに感心しました。

#### 4. アンケート調査

28 公演で実施(30 回)

回答数 5,343 人(配布数 8,312 人、回収率 64.3%)。回答者の 75.3%が概ね満足と答えた(4,024 人)。

#### 【特記事項】

- ・ 国立劇場おきなわにおいて、全公演に字幕にて歌詞を表示し、鑑賞の助けとした(「国立劇場寄席」及び小劇場で行われた公演を除く)。
- ・ 平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災により中止した企画公演、歌舞劇「首里城物語」を 7 月企画公演として上演することができた。
- ・ 10 月企画公演では沖縄県が開催する「第五回世界のウチナーチュ大会」に併せ、移民とともに海を渡った沖縄の伝統芸能を「我らが住むは五大州」と題して上演を行った。
- ・ 国立劇場おきなわ 10 月企画公演「我らが住むは五大州」において、世界のうちなーんちゅ大会実行委員会事務局の協力を得た。
- ・ 国立劇場おきなわ 2 月企画公演「文楽公演」において、(財)海洋博覧会記念公園管理財

- 団首里城公園管理センターの協力を得た。
- ・ 平成 23 年度文化庁芸術祭主催公演では、11 月企画公演アジア・太平洋地域の芸能として、隣国である「韓国の伝統舞踊と音楽」を披露した。また、今回は公演と併せて日本・沖縄と韓国の継続的な交流の基礎をつくる事を目的とした交流事業を展開した。公演で上演される韓国の伝統音楽と舞踊の魅力を解説した「公開ワークショップ・レクチャー&デモンストレーション」を 11 日に行い、53 人が参加した。また 14 日に開催された芸能フォーラム「沖縄と韓国、伝統芸能交流の展望」には約 100 名の参加があり、今後の交流に向けた様々な可能性について意見を交換した。いずれの交流事業も一般公開で行った。更に、組踊研修生と韓国の若手実演家の「意見交換会」を開催して親交を深め、将来に向けて継続的な交流の基盤づくりを行った。
  - ・ 2 月の企画公演では当劇場では初、また沖縄県での本格的な上演としても 40 有余年ぶりの人形浄瑠璃「文楽公演」を実施することができた。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 17,424 人／目標 16,529 人(達成度 105.4%)

2-(1)-⑦ 演目の拡充

1. 復活上演候補演目の上演候補台本準備稿の作成作業
 

3 月 26 日に開催した復活上演候補作品調査検討会において、候補作品のうち、「有職鎌倉山」の準備稿と「命懸色の二番目」の上演プランの内容につき、委員と共に検討を重ねた。「有職鎌倉山」については復活上演用準備台本を 24 年度に作成する。また、準備稿の進捗状況の報告と新規の候補作品に関する情報の提供を受けた。
2. 歌舞伎の新作脚本募集
 

23 年 10 月より 24 年 3 月末まで応募を受け付けた。前回の経験を踏まえて、ポスター・チラシの掲示配布の協力を依頼する関係団体や広告掲載先の雑誌の選定、ネットメディアの利用の拡充、興行会社との協力方法など、周知方法をさらに見直した。その結果として、昭和 53 年度に開始して以来、史上最多の 213 篇の応募があった。なお、選考・表彰は 24 年度に実施する。
3. 文楽における作曲等の上演準備作業
  - ・ 国立劇場文楽演目復曲事業の一環として、『弥陀本願三信記』『石の枕の段』『樋野左衛門屋敷の段』を三味線の朱(三味線の楽譜)をもとに復曲をおこない、録音をおこなった。
  - ・ 国立劇場文楽公演復曲事業の一環として、『大塔宮曦鎧』『六波羅館の段』『身替り音頭の段』を三味線の朱(三味線の楽譜)をもとに復曲をおこない、録音作業を兼ねて復曲試演会を実施した。(3 月 23 日、伝統芸能情報館レクチャー室、参加者 94 名(応募者 273 人、当選者 110 人))
  - ・ 平成 22 年 7 月に文楽劇場で復活した『日本振袖始』『大蛇退治の段』を、尾上墨雪の新たな振付、石見神楽の大蛇を使った素戔鳴尊と八岐大蛇の視覚的に効果の高い立ち回りなど装いを新たに再演した。
  - ・ 文楽劇場において、夏休み文楽公演で平成 13 年に台本作成事業として初演した「舌切

	<p>雀」を演出を改訂して再演した。</p> <p>4. 大衆芸能の新作脚本募集  23年度は「落語」部門の脚本を8月1日より募集開始し、8月31日に締め切った(応募総数186篇)。  1月25日に選考会を開催し、優秀作2篇1名・佳作1篇、財団法人清栄会による奨励賞1篇が決定した。  優秀作「河太郎政談」「一足違い」井口守  佳作「菰狂言」栗原昇  清栄会奨励賞「塩梅」佐和みや</p> <p>5. 能楽における新作の上演及び復曲再演  ・ 7月特別企画公演 新作能「影媛」(国立能楽堂委嘱作品・初演)  ・ 12月企画公演 復曲能「布留」(昭和59年復曲)</p> <p>6. 組踊等沖縄伝統芸能における新作組踊及び新作の沖縄芝居の上演  ・ 6月企画公演 沖縄芝居「九年母の木の下で」  ・ 7月企画公演 歌舞劇「首里城物語」  ・ 1月企画公演 新作組踊「サシバの契り」</p>	
--	---	--